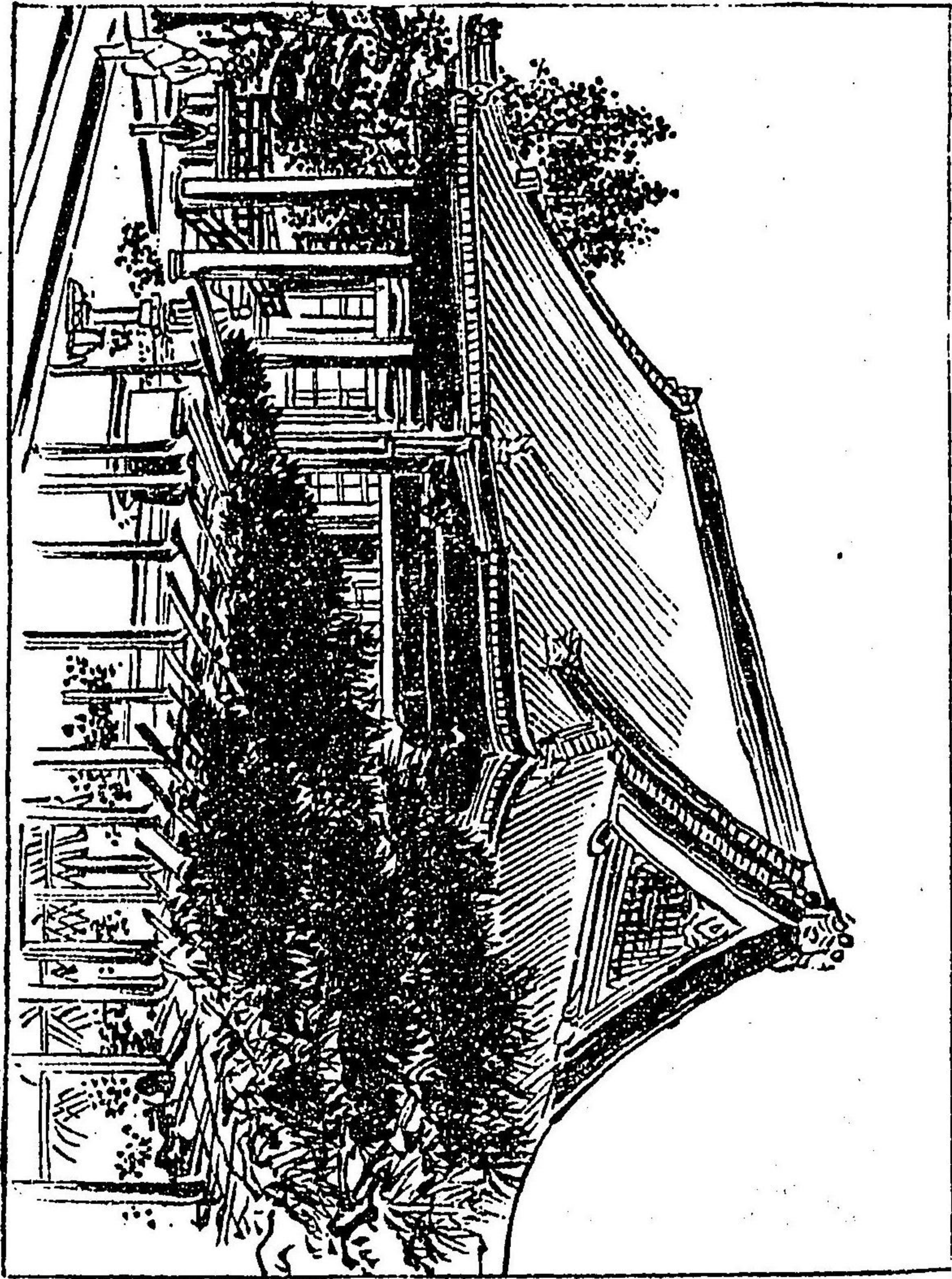


●たけよし尊良親王墳（禪林寺前田圃中）後醍醐帝第一皇子にして延元二年越前金崎城に於て自殺し玉み以御首級を京に上し此處に葬まうひることは舊史きゅうしに載たり

●えいけんどう永觀堂（南禪寺の北）淨土宗西谷派本山禪林寺また聖衆來迎山無量壽院と號す開基眞紹僧都中興淨音和尚創立齊衡年中沿革往時藤原關雄の山莊なりしを眞紹もどめて淨刹とすはじめは眞言なり貞觀五年勅願所となる爾後花山法皇の王子深觀僧都これに住玉たまひ其徒弟永觀律師次て住職となる其後西山上人の法弟西谷淨音和尚の時よ



寺 祖

り大に淨土宗を弘む本堂西向、本尊阿彌陀在昔永觀律師
行道念佛の際永觀を左晒したまひし靈像とて世に回顧本
尊と稱し著名なり堂の傍に圓光大師の廟あり堂前に悲田
梅と名づくる老樹あり草場船山翁碑(庫裡の前)辨財天祠
(本堂前の池中)池に蓮あり又境内楓樹多し秋晚錦を染出
し池水に映して艶美なり

○若王子神社

(禪林寺北)祭神紀州熊野神社に同じ創

立永曆年中沿革

後白河法皇深く熊野神靈を尊崇せしま

し三十三度の御幸あり後都下に三所(本社並に今熊野聖

禮院)の同神社を建玉ふ安政年中有志の徒荒廢せるをや
や興して今に至れり境内古來風致あり寛正六年足利義政
觀花の遊をなせしと舊記に見たり其他若王子看花のこと
古人の詩歌に載るもの多し中世甚く廢殘せしを本社再造
の時其舊に復し數多の櫻楓を栽へ殊に霜葉の頃は滿山錦
繡を以て飾るが如く頗る美觀なり又境中に十一面、千手、
如意輪の三飛泉あり

常社の北に禪宗光雲寺あり在昔 後水尾天皇の祈願所
にして女三宮御墓は其東南圃中(舊境内)に在り

京都より東北愛宕郡 此より前にも同郡部に属するものあれ

●靈鑑寺 (鹿谷村字谷口)禪宗本尊不動明王開基 後水

尾帝皇女靈鑑尼公なり依て靈鑑寺宮又比丘尼御所と稱し

代々尼僧の住持とはなりぬ

◎如意嶽 (鹿谷東嶺)俗に大文宇山といふ東山の一枝峯

なり毎年八月十五日送火とて半腹一大字の炬火を焼く相

傳ふ弘法大師の畫する所なりと字勢雄勁壯大凡筆の及ぶ

所にあらむ其大字の一横畫長さ四十間右の一畫六十八間

左豎の一畫八十間餘其間無數の凹處あり薪を其上に積一

齊に火を點す光焰萬丈天を燭して赫々たり眞に東山無比の偉觀たり又雪後の奇絶を雪大文字と稱す

因にいふ同夜松崎に妙法舟岡山に船形鐘打山に左り大

文字等を點火せり

●安樂寺 (鹿谷村)淨土宗本尊彌陀三像沿革法然上人念

佛の山房なり後に住道安樂二人の徒弟に附せらる時に

後鳥羽上皇の愛妃に松虫鈴虫といふ二女信心の餘り此庵

に入り尼となる 上皇憤て二僧を死罪に行ひ上人を南海

に流し玉ひ茲に廢絶せしを後世再興す松虫鈴虫塔境内東

方にあり又本堂脇壇に両尼の像あり

●法然院 (安樂寺北)淨土宗開基住道安樂二師中興萬無

上人境内頗る閑靜なり世に鹿谷流といへる六字づめの念

佛は常院の稱名より起れりと云

●銀閣寺 (淨土寺村)禪宗十刹の一慈照寺と號す開基夢

窓國師創立文明十二年沿革足利義政世務に倦み此處に別

莊を建て閑棲し茶を點し専ら風流を樂しむ後遺命によ

り革めて佛刹となせり浴北鹿苑寺と東西相對し金銀閣

屹然として平安著名の精舎たり佛殿古の客殿にして中間

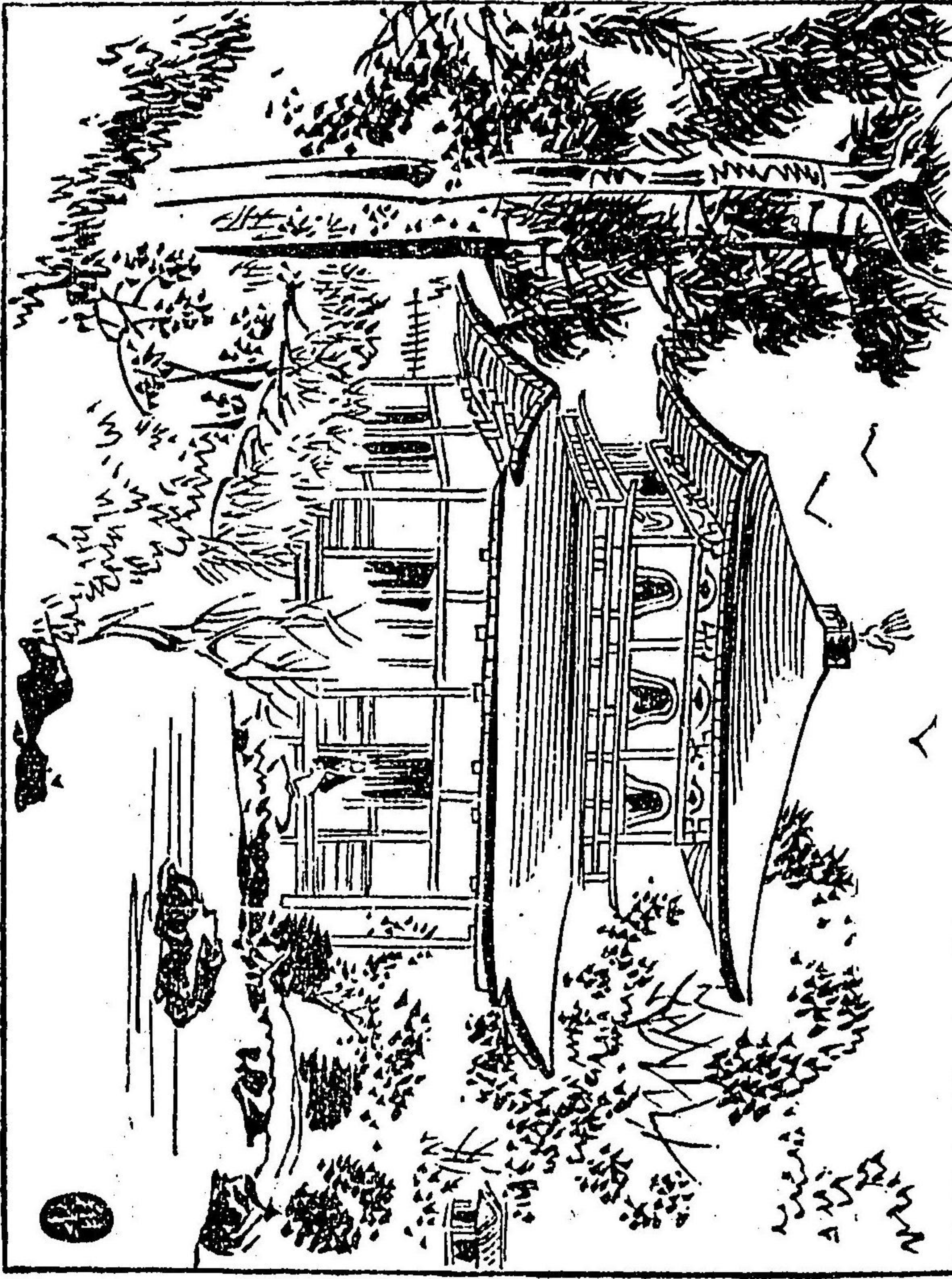
は群仙、東西の二間は山水皆希世の名畫なり東求堂（佛殿の東）義政の持佛堂にして傍に義政法体像及び自筆壽牌等あり中央襖障子の墨畫は相阿彌、北間は狩野永納、東茶間は同古法眼元信の筆なり又此茶間は茗室四疊半の典型にして違架窓等の構造其他粧飾品悉く義政の遺愛物に係り世の好茶家の流涎噴賞せざるものなし二層閣（佛殿の坤位）世に名高き銀閣にして義政銀閣に擬し建設する所なり下層は潮音閣と稱し東西三間半南北四間上層は心空殿と號し方三間あり閣上に紫銅翔鳳を置けり林泉

義政の嗜好に出で助くるに茶家相阿彌の神匠を凝せしものなれば後世造園家の模範とする所にして古人の洞庭西湖を縮め松島象瀾をた、みたるものと稱賛せしも過賞にあらざ其勝概なか〜凡筆を以て記し得ざるなり（以下吉田神社につづく）

●詩仙堂（一乗寺村）石川丈山翁の隠棲されし遺址にして三十六詩仙の番は狩野尚爾來三百餘の星霜を経翁の遺愛品信筆題詩は翁の自筆あり爾來三百餘の星霜を経翁の遺愛品さへ多く保存せるは實に其高德に因るなるべし又頑仙碑（東南三町許の山上）は翁の壽躰なり

●北山別院きたやまべつゐん（一乗寺村字舞樂寺）本派本願寺の別院なり
 俗に北山御坊と稱す開基は見真大師也大師登叡に際し此
 處の清泉に浴すること一百日京都六角の觀音大士に祈願
 し終に他力本願の一念を開けりと云

●圓光寺えんくわじ（一乗寺村）禪宗本尊千手觀音中興三要和尙初
 め野州足利學校を管す慶長六年家康の命にて之を伏見指
 月次て相國寺内に移し寛文中又此處に遷り洛陽學校と稱
 せり當時用ひし許多の印版數萬の木製活字及び朝鮮書冊
 數十部（斯は征韓役の獲物ならんと云）等今尙存せり又庭



圓光寺

前泉石頗る見るべし

●曼珠院 (同所) 天台宗延暦年間傳教大師の開基なりと

云文明慈運大僧正、覺恕法親王の住せ玉ひしより世に曼

珠院門跡と稱す林泉は小堀遠州の作にして絶好なり

●林丘寺 (修學寺村) 禪宗本尊聖觀音開基照山元瑤尼公

(後水尾天皇々) 維新前代々雲上方比丘尼の住持せられしか

ば世に林丘寺宮と稱す

○赤山神社 (同村の北) 在昔天台宗守護の爲に建つと云

○寶幢寺 (高野村) 淨土宗なり其北に天台宗蓮華寺あり

○御蔭神社 (高野村の東御蔭山の麓) 相傳ふ上古賀茂皇太神宮御降臨の處なり故に地名を御生野と稱すと

○八瀬天満宮 (八瀬村) 社傳に菅公少時叡岳尊意に就て學び後筑紫にて薨じたまひ其靈尊意の許に來り少しく意に滿ることありて席上の柘榴を嚙て妻戸に吹かけ玉へば不思議なるかな忽ち猛火炎々として燃上れり尊意神慮を恐れ本社を建つと社前に高さ八尺許の石あり俗に辨慶脊鏡石と云又本社北方より東塔越とて叡山に登る道あり世人これを八瀬驅出とよべり 叡山記事は聯合府縣の部に在り

因に云八瀬一に矢脊に作り在昔 天武帝弘文帝と御位を争ひ軍敗れ北玉ふとき流矢 御脊に立けるを以て此名おこれりと云、里人風俗 敬 撰に於て婦女は日々薪炭の類を頭に載京都に出て歸くもの多し古代より今に更め世に矢脊大原女とて其古風わるを稱す

◎大原 (八瀬の北一里許) 新古今集に式子内親王の「日敷ふる雪けにまざる炭籠の煙りもさみし大原の里」と詠たまひしは此處にしてむかしより名たかさ所なり

◎惟喬親王遺跡 (上野村南字一本杉) 五輪の石率塔婆は其墳ならん御所内といふ地はその山莊の趾なり

◎勝林院 (勝林院村) 開基叡源法師建立長和二年本尊を

証據彌陀と稱するはむかし叡山の覺超、偏教といふ二僧
如來の前にて佛義の空不空を論せしに本尊其空を證し玉
ひしによれり又文治二年法然上人山門座主顯眞等と法談
あり世に大原問答といふ

●後鳥羽帝御塔 勝林寺前に在り古寶篋印塔なり

●來迎院 (來迎院村)開基良忍上人建立天仁三年本尊彌
陀三佛往時は坊舎一百餘もあり大刹なりしとなむ

●音無瀑 (來迎院東四町許)小野山麓に懸る飛泉二丈餘
り兩岸樹木鬱蒼たる間に一條の素練を引が如し小野山と

共に古歌に出たる名所なり

●阿彌陀寺 (勝林院北古知谷)淨土宗、本尊阿彌陀開基
彈誓上人は優婆塞(髮を畜ふる僧)なりければ其遺像に髮
あり俗に植髮木像と稱せり

●寂光院 (草生村)開基弘法大師 本尊地藏菩薩本寺は
古史にも載ることく文治の往年建禮門院祝髮してのち隱
棲したまひ 後白川法皇も翠輦を枉させ玉ひて世に最も
悲哀なる物語を留むる舊蹟なり境内みぎは池みぎは櫻あ
り 嫺雅幽靜にして人をして坐ちに門院の「思ひまや深山

の奥に住居して雲井の月をよそに見どは」の御詠を思ひ出し轉た懐古の涙に咽ばしむ又朧清水は當寺の邊なる由なれど今同名の水處々にありて何れ真なるや定かならぞ

●建禮門院御塔 寺後なる翠黛山下古色蒼々たる五輪の石造卵塔なり

○江文神社 (井出村)祭神宇賀魂命 靜原嶺は當社の西にあり此より岩原へ一里許なり

(注意)以下數項は三條大橋より鴨河に沿て愛宕郡に到る道の筋の市部にして問々他の補遺と見るべきものあり

▲京都織物會社 (荒神橋の東端)煉瓦造の高厦なり其南

隣に牧蓄場あり對岸を三本木といふ頼翁の山紫水明處は今尚ほ在り又高等學校元高等中學校は東北位の吉田町に在り

●岡崎別院 (岡崎町)宗祖見真大師幽棲の舊地委見の池

には縁起あり延賞臺の風致は八勝粟田朝設、大日夕照、永觀樓花鹿、南瀨曉鐘、華頂晴雪、あり

●百万遍 (田中村の東)淨土鎮西流四箇本山の一知恩寺

と稱す慈覺大師の草創にして今の地に移りしは寛文二年なり當寺の善阿上人念佛一百萬遍を修して疫病の流行を禳ひしを以て小松ありて後醍醐天皇より此號を賜はる今尚ほ當時の大珠數を存せり内府鳥居元忠其他雲上人の墓碑等多し

●干菜寺（百万遍の西）豊公に干菜を獻りしより名く

京都より北愛宕郡

○加茂御祖神社（下加茂村）官幣大社世に下加茂社と稱

す東殿に 玉依姫命 西殿に 健甕身命を奉祀す古來

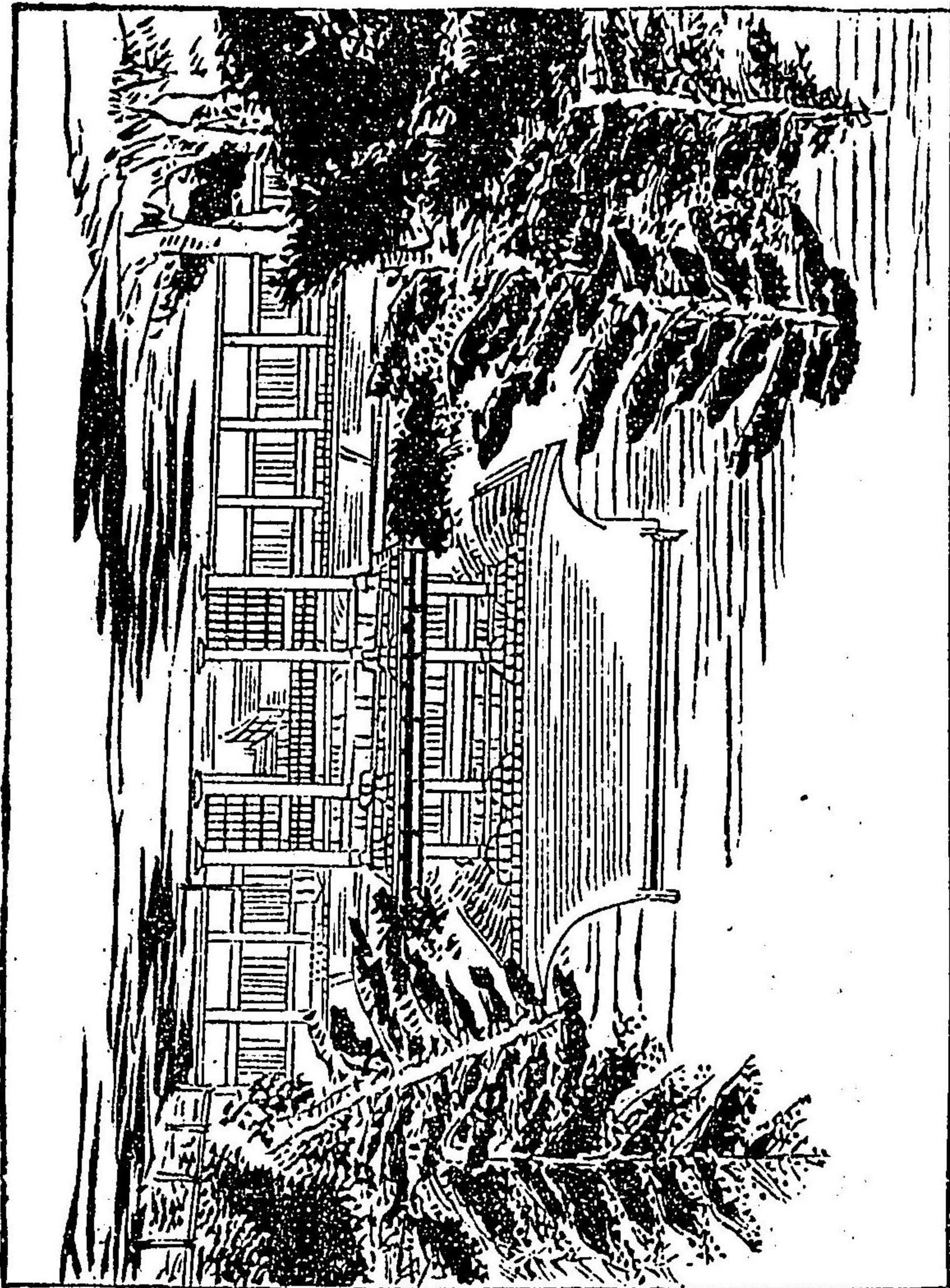
歷朝の尊崇最も厚く伊勢及び石清水と並ひ稱して三社と

いふ尚精細は國史に明かなれば此に録すの要なし本殿南

面にして樓門廻廊丹青目を眩すばかり煌然たり東方御洗

川源に井上祠、西方に終木祠あり此祠に獲する八小樹を南境

に河合社あり即ち加茂川と高野川と合する所なり神境老



加茂神社

樹蒼々として紅川其東を流れ頗る幽致あり又上古より今
に傳へて莊重なる葵祭(五月十五日)は 欽明帝の御宇よ
り始めり又競馬は例年七月五日これを行なへり

●妙泉寺 (松ヶ崎村)日像上人の開基にして毎年八月十
六日村中の男女相集り法華題目に音調を附けて踊る世に
松崎題目と云同夜後山に妙法の二字を點火す

●大雲寺 (巖倉村)天台宗本尊は觀世音なり又此處を北
岩倉とよばは延暦年間王城の四方に石藏を作られしに因
と村内に實相院あり維新前は門跡號を許さる又萬里小路

藤房卿遁世遺址あり近來有志者其碑を樹つ

●圓通寺 (幡枝村) 禪宗文英尼公圓基任公の女の本願所にして

後水尾帝の祈願寺たり曾て御幸し玉ひ宸翰御衣等を賜はる庭園は小堀遠州の作にして日枝を居然座中の賓となし遠近諸山左右に陪し風光絶佳なり

○三宅八幡宮 (高野村) 世に小兒の蟲氣に祈れば靈驗ありとて參詣するもの多し

●御菩薩池 (幡枝村) 名高き大池なり傍に西光法師がいとなめる地藏堂あり六地藏廻はりの一なり

○加茂別雷神社 (上加茂村) 官幣大社なり 別雷命を奉

祀せり一に上加茂社と稱す往古より加茂上下太神宮と號し奉り 歴聖の崇敬下囑に異ならせ神殿の莊麗も亦畧同じ相傳ふ都の東に殿神、西に猛神鎮座あり猛神は松尾にして殿神は本社なりと寔に皇城無比の靈廟なり

●鞍馬寺 (鞍馬村) 天台宗、本尊毘沙門天開基鑑禎上人

中興峯延和尚建立寶龜元年 後白河上皇御幸し玉ひ 後醍醐帝綸旨を降し凶徒退治の祈願あらせらる元治元年再建に着手し明治五年落成せり境地頗る廣く諸堂建並び名

跡あと少すくなからされとも一々しづ記ししがたしり例年六月廿日僧俗集り又僧正谷は本堂の西北十町許に在り相傳あひつたふ源義經みなもとよしつね尙あきら遮那王あまのむすねと稱なづせし時此處にて劍けんを學まなびし所なりと云

○貴船神社 (貴船村)官幣中社祭る所は高麗神なり古來朝家の崇敬深く雨を祈り晴を祈り玉ふと史上に散見せり

是より北深溪幽谷險惡なる行路四里餘にして大悲山峰定寺に達す天台宗にして境内の乳石名高し

○船岡山 其容の肖たるより名づけしならむ洛北の一名區にして山高からざれば登臨あがりによるしく眺なが望佳なり

○建勳神社 (船岡山)別格官幣社、祭神贈從一位太政大臣

臣平 信長公并に贈從三位左近衛中將信忠卿天正中豊太閤此地に靈祠を建て其忠勳を不朽に傳へんとせしも未だ成すして薨こせ明治二年本社を造營され神號を賜はる

○紫式部墓 (雲林院の東南二町許)式部の雲林院に住れしとは岷江入楚等の古書に出たり

○大徳寺 (紫野)濟家禪宗、開基大燈國師(妙超)本寺伽藍は赤松圓心同則祐、方丈門は明智光秀、閣の千利休寄捨し又山門は宗長(蓮歌師)の修造する所子院多き中にも眞珠庵は一休和尚の開基にして其庭は金森宗和の作、大仙院

の庭は相阿彌の作名石廿箇より成る孤蓬庵は小堀遠州建
て其庭雅致あり又總見院に織田信長公墳、黃梅院に小早
川隆景朝臣の墓あり其他諸名士の墓多し

○今宮神社 (紫竹大門村) 府社祭神、大日貴命事代主
命 稻田姬命鎮座正曆五年、長安二年靈夢により紫野に

遷さる此時京都の衆庶先を争ふて賽禮す世に今宮祭と稱

せり例祭十月私祭十五日の外に鎮花祭四月二にやすらる祭

とて頗る古雅なる式あり

●蓮臺寺 (船岡山西) 眞言宗新義派開基聖德太子本尊地

藏發時 堀河 二條兩帝及ひ待賢門院等の御骨を葬めし

こと舊記に載、一の古名刹なり

●正傳寺 (西加茂字御所内) 禪宗開基宏覺禪師本尊釋迦

佛、後山楓樹多く秋季風光甚た明媚なり 八月十六夕こ、に
舟形の點火あり

●光悅寺 (鷹が峯村) 法華宗開基本阿彌光悅書を巧にし

兼て文字に通せしは林道春の太虚庵の記に精し

京都より西北葛野郡

●椋敷嶽 (小野村字東河内) 洛北の高山にして眺望斜な

らぎ往代惟喬親王幽棲し玉ひしとか山下に同親王祠あり

同所長福寺内十二層塔は親王の塔ならんと云

○小野道風社 (同村宇杉坂)土人武大明神と稱す在昔小

野莊の名に因み祀れりと云境内に神廟八勝あり

●金峯寺 (出谷村)眞言宗、開基役行者本尊不動明王

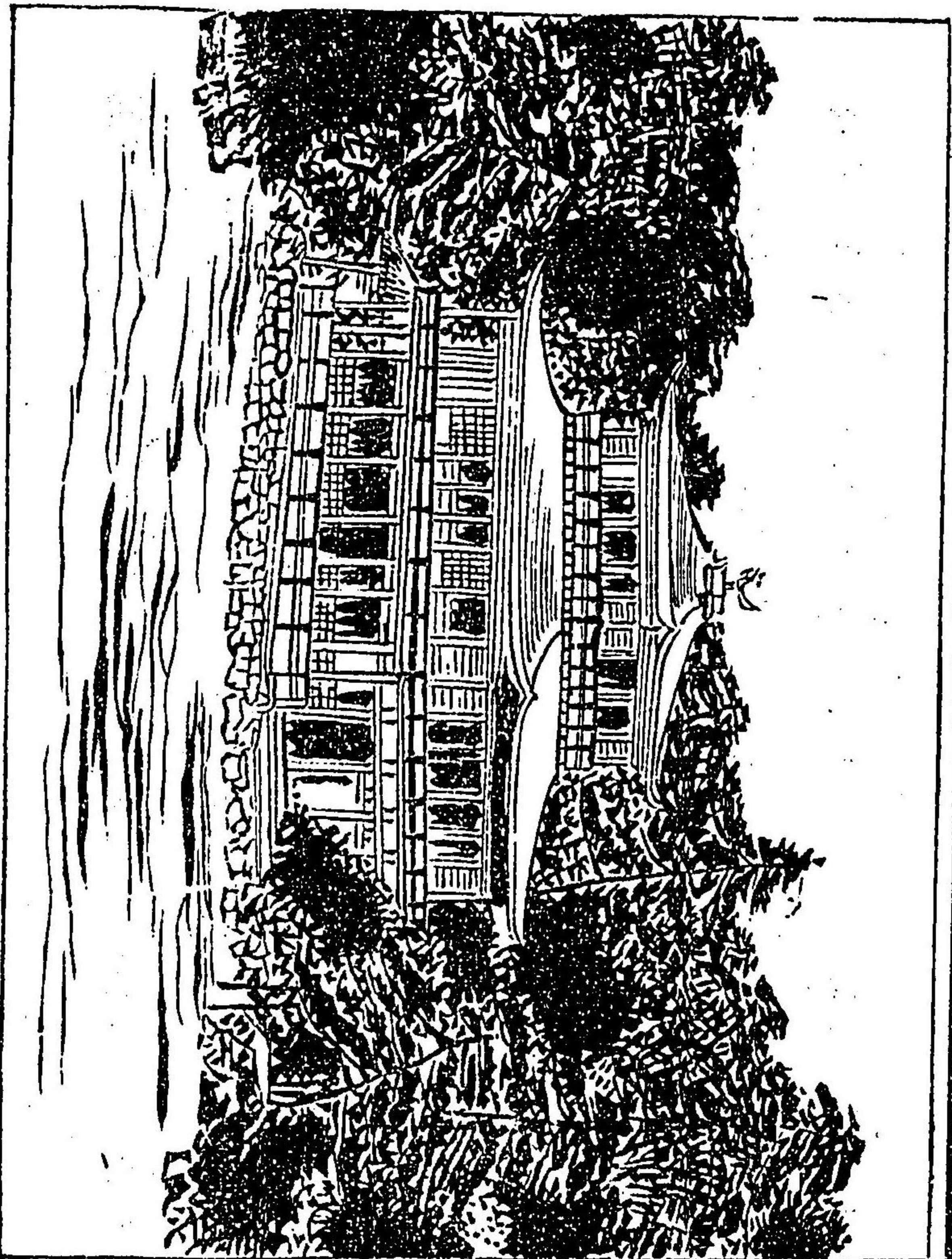
天長六年弘法大師密法を修られし故跡あり寺は岩屋山の

半腹を占め泉石の幽勝に富り

(注意)以下別に路を洛西北隅北野天神よりとりて行くも

○平野神社 (洛西平野)官幣大社延暦十三年大和國より

衣笠山東に勧請し次て此處に遷座す古來歴聖の崇敬厚く



平野神社

祭儀も甚嚴重なりし由往々史冊に録せり本社東面、第一殿に今木神 第二殿に久度神 第三殿に古開神 第四殿に比咩神を祭り其南を縣社と稱す神境ひかしより櫻花多く春夜燭を秉て遊ふもの群集す平野夜櫻とて祇園夜櫻と併び稱し世に著名なり社の東畔に紙屋川あり盛夏の候納涼の人多し

●金閣寺 (北山村) 濟家禪宗北山鹿苑寺と號す開基夢窓國師建立應永四年 元は西園寺公經卿の山莊なりしを足利義滿其勝景を愛し請ふて精舎を構へ林泉を營みこゝに燕居せり即ち足利最盛時 庭中著名なる三層金閣のるを以て世に金閣代の遺物に係る

寺と稱せり尙委曲は縁起を見て知べし本堂南向 後水尾
 帝の再建なり中央正觀音脇土梵天、帝釋、左右壇に開山
 夢窓、中興文雅、義滿等を安す紙屏は總て探幽の畫なり
 堂前皆滑なる處奇石八あり堂後の大小書院清麗雅致あり
 〇〇 金閣三層樓高二尺にて上に紫銅鳳凰六寸を置く其下層南北五
 間 西七を法水院と稱しを安置す中層間敷を潮音洞と號し觀音を
 最上層四方各三間を究竟頂といふ天井は楠の一枚板四方な
 り皆押に金箔を以てす是れ金閣の名稱起る所以 今は大抵に
 して下瞰すれば四周の風光鏡湖に映涵し妙いふべからず

池中の夜泊、夜泣、九山八海の三石は須彌に擬し葦原、
 淡路二石は日本を象りて島嶼に似たり其他赤松島山細川
 等の諸石は當時群雄の献せし所南岸には紅葉山あり虎溪
 橋は園中最も幽邃の所夕佳亭は金森宗和の好み南天竹の
 床柱荻の建棚世に名高し其他八勝八景十境等あり雪月鶯
 花皆其宜きを得たるの名苑此の如きは殆ど天下絶無なり
 鏡石、不動石、共に附近に在り路次一見するも亦妙

◎衣笠山 (衣笠村) 一に蓋山に作る形状の似たるを以て
 なり 一説に 宇多法皇御室に於て夏季笠雪の奇觀を試み
 玉はんとて縁を掛け給ひより雨掛山と云ふ

●真如寺 (同字等持院) 禪家十刹の第三開基、夢窓國師本願高師直後水尾帝再興して皇女月鏡院尼公を住持となし玉ひしも現時は又復荒涼の感あり

●等持院 (真如寺の西一町) 五山十刹の間なる中本寺なり曆應年中尊氏真言寺を中興して夢窓を開基とす慶長中秀頼造築し近年又増修せり本尊利運地藏は尊氏の持念佛弘法の家康自作四十二歳等身の像は維新後八幡豐藏院より遷す佛殿の後元は佛殿の東に尊氏の墓仁山大居士と題せりあり高山仲細の鞭撻しは是なり林泉は夢窓の作にして今は

僅に其儻羊に過ぎざれど幽邃閑雅趣味多し

●龍安寺 (等持院の西) 禪宗妙心寺末開基義天和尙なれど其師日峯を始祖とす中興特芳本願細川勝元に其塔あり笠左大臣の山莊を請て佛刹となす其後慶長寛政兩度修理す境内廣く鏡容池の邊最も風光明媚なり昔名高き鴛鴦は今其影を見ざれど方丈前の虎の子渡の庭相阿彌の作庭中唯だ數個の奇石あるのみ

は容を更めき後山に 帝陵多く眺望佳し

●妙心寺 (花園村) 臨濟禪家の大本山子院四十二末開基關

山國師中興日峯和尙 花園法皇深く開祖に歸依して其離

宮を佛寺となし玉ひ別に伽藍の東に間棲し玉ふ玉鳳爾來

歴聖の崇敬篤き一大名利なり南門より二町許の敷石をの西に

勅使門その北三門を入りて佛殿本尊に到り其北に法堂明曆

の建立覆檜の極彩色蟠龍は深幽の筆にして古今無比の名畫次に寢殿、寢殿の東長廊の北に大

方丈張即之の額探其東に小方丈あり又法堂の東一廊を爲せ

るは玉鳳禪宮花園法皇の宸影を奉安す其他信玄信長信古代の隣

公廟乘君玩具の舟に武田氏塔四基誰の道福な織田氏塔二基瀧川

の建建涅槃堂丈三の黄銅涅槃像は等なり經藏の傍に東鐘樓、雪江

立京人吉岡某の書繪松あり當寺六世雪江の植ゆる所四百卅餘年を経たる老松

にして古蒼掬すべし鐘樓は春日局亡母追薦の爲に建立す

其東南の浴室は塔頭太嶺院開基密宗禪師其甥光秀追福の

爲に建立し明曆二世に妙心寺の明智風呂と云又古鐘は千

百九十七年前の物なりと云塔頭天授院法堂開基授翁宗嗣

和尚は藤房卿にして當山第二世なり木像其他明治十二年

今上特に圓鑑國師の勅號を賜ふ海福院探幽の醉筆唐人猿

を舞すの圖名高し佐久間象山墓は大法院に春日局靈舎は

隣祥院に在り當寺書畫珍品は寶庫に溢る、ばかり詣者の

多きは都に近ければなるべし往古著名なりし林泉今は大

半圓囿と化たれど殿閣の壯麗は本願寺の外多く見ざる所
風致數へ來れば亦十境あり

●雙丘 (妙心寺の西)別に一の岡二の岡三の岡の名あり

雙の字に因みて「思ふとち双の岡」など詠たる古歌もあり

吉田兼好此邊に草庵を結びしは歌仙の知る所なり

●法金剛院 (双丘の東南)在昔清原夏野公の山莊にして

大治年中待賢門院中興せられし事あり 舊城は方四町餘なりといふ

●仁和寺 (御室)眞言宗大本山御門跡大内山と號す開基

宇多天皇創立仁和四年八月本願 光孝天皇仁和二年創

建の勅あり未だ厥績を奏し玉はむ同三年崩御あらせらる

宇多天皇讓位の後昌泰二年本寺に剃髮したまひ延喜四年

御室を造營ましく法務の御所と定め玉ふ是れ御室の稱

ある所以なり爾來歷世 帝室より出て、法務に當らせ給

ひ維新前今の小松宮殿下 仁孝帝の御養子として入室させられ一品總法務

住の時一品に叙せられ給ふと帝皇太子皇孫連綿として一千年間

繼承絶へむ實に全國無比の一大名刹なり當代に至り大僧

正榮殿初て庶人の身を以て住職し本宗古義新義派の總法

務を管せり地域九万八千九百卅一坪金堂梁行十間桁行十四間

本尊阿彌陀佛

永十一年再建の時 後水尾天皇より賜ひたる紫宸殿なり
 御影堂五間八分四方 本尊弘法大師 金堂と同時に下賜の清涼殿を以て改築
 せり観音堂八間五分四方 本尊千手觀音 同時の建立にて當時最も力を再建
 に盡したる顯證上人の潜神したる所にして建築の好模範
 たり御室御所即ち寢殿金堂御影堂と共に 恩賜の常御殿なり は明治二十年他の廿
 二字と共に舞馬の災に罹り次年假に新築せり遠廊亭光琳の 茶亭
 飛濤亭光格帝の 茶亭 共に好古家をして健羨せしむ寶物中弘法大
 師手寫の經細楷書 三十帖 同自作寶珠箱等稀世の絕品なり境内櫻
 多し御室の櫻狩として世に名高し寺後の大内山に 寛平法

皇陵並に摸擬の四國靈場八十八箇所あり 光孝天皇陵は

三門東西十四間餘 南門八間餘の西に在り

仁和寺より高雄に向ふ途次鴨瀨の山上に五智如來蓮寺 尊

として形狀奇古なる大石像あり傳云ふ明曆中樋口某之を

擔はふて登りたんと當時用ひしと云鐵 履近年盜難に罹る山上眺望好し

○梅畑八幡宮 (梅畑村字平岡)和氣公の奉祀なりと云

●神護寺 (同村字高尾)眞言宗、開基和氣清曆公創立神

護景雲年間寺傳始め河内國に建て神願寺と號せしを眞綱

父の遺志を紹つぎ此處に遷す 淳和帝神護國祚眞言寺と改

稱し空海に賜ひ天長九年定額寺となり壽永元年文覺再興

せり金堂元和九年再建本尊藥師講堂金堂の北本大師堂の住房なりしとぞ

堂鐘樓三絶の方丈新築にて等あり和氣公舊祠の下木柵を繞し

て其跡を存す碑あり題して和魂漢才と云豊公性仁法親王

並に文覺上人墓乾の方三町許御厩山に在り境内幽邃閑雅

満山殆んど楓樹にして秋晩の壯觀は天下に比なし

●西明寺(同村字楨尾)開基智泉法師にして正忍律師の

再興せしより眞言律宗を兼ね本尊釋迦なり現今の堂は徳川桂昌院の建立

●高山寺(同村字梅尾)華嚴眞言兼學、明惠上人日本製茶の鼻祖

文覺の意を繼ぎて再興す境内に往古加茂より遷したる八

百年前の古建築一字あり山下に架すを白雲橋と云橋頭の

風光明謐なり以上三山を世に三尾と稱し共に紅葉に名あり高尾は壯大横尾は逸雅梅尾の明謐と配置し自然の妙なり

●愛宕山(山城の西北隅)直立三百七十六丈餘眺望に富

み山中日暮瀧其他名跡多し嵯峨一の鳥居より上ること五十町三尾山よりも上ることを得べし

○愛宕神社(愛宕山上)古へ阿多古又愛當護に作る世に

防火神と稱し賽詣常に絶え天應年中の勸請なりといふ

●月輪寺(愛宕山腹)本尊千手觀音開基慶俊法師愛宕神社と同時の創立

九條兼實公此地に栖遲せらる故に月輪禪定と稱す時

兩櫻のは前は見眞大師北謫の時公に告別を惜み紀念の爲に
栽られしどか葉末より滴る露は涙の落るに似たり

●水尾山寺 (愛宕山一の鳥居より左五十町)今は荒れ果

たれど昔勅に依て 清和帝の大法會を營みし所同帝陵傍

◎廣澤池 (上嵯峨)寛朝僧正宇多帝の御孫の遍照寺池の西南に僅に

境内に關かれ昔は觀月の勝地として古歌多し因に云

眞言小野流に對する廣澤流は此に起源せり

是より西北五町許に 嵯峨帝離宮の古址大澤池あり又其西北の名社瀧は
今僅に數個の石を殘し「瀧の音は絶て久くありぬれど名こそ流れて猶
は聞へけれ」平維盛妻子の贅居せし萬蒲谷も此邊にあれば好事家は試に
杖を引も可あり

●大覺寺 (同上)眞言宗、本尊五大尊 淳和天皇第三皇

子寂恒法師を開基とし 嵯峨天皇の離宮を修理して蘭若

となしたまひし所にして 後宇多天皇中興の事あり今尙

冠の間と明徳三年南北朝合一の儀式ありしも當寺なり佛は

祇王、祇女、刀自及び清盛像並に繪巻物往生院より 俱生神

司命、司祿小野靈寔府の土を以て作りたり 等好古家の資料多し

●清涼寺 (同所の北)世に釋迦堂と呼は本尊釋迦の有名

なるに由る即ち開基盛算の師裔然宋に入り佛工張榮をし

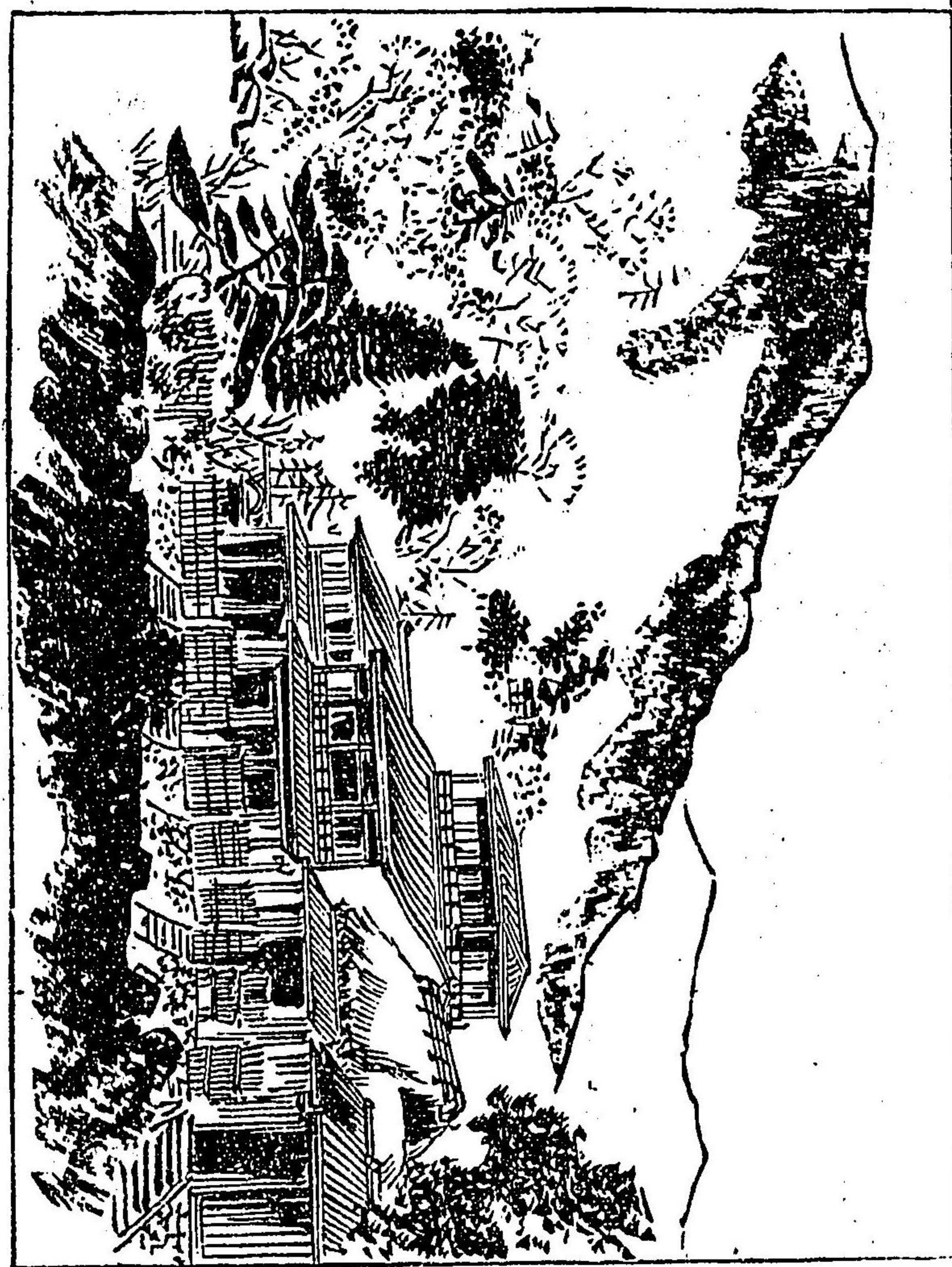
て毘首彌磨の作を擬刻せしめし靈像立像五尺二分白梅檀の巨材

屢々叙覽に供し元祿十三年綱吉江戸城に迎ふ是れ出開帳
の發端なり宗旨は兼學なりしが今は淨土となる又此地は
棲霞觀嵯峨帝維宮の一部源融公に賜ひ其山莊とせし所の舊址にして本堂の西南に古
石塔二基北は嵯峨帝南は融公あるは此因縁なり

●楠正行公首塚清涼寺南門の西半町舊寶篋院明治七
年廢寺の時木主楠左金吾義勇大居士と題すと吳溪の記文を得て足利義詮
の墓と同域なるを知り近年有志相謀て一碑を建つ谷鐵臣翁撰文

●厭離庵同村字中院定家卿の故蹟なり傍近田間に爲家卿墳墓あり

●往生院舊跡同所の西崩出も枯るも同じ野邊の草何



三河

か秋にあはてはつべきの歌にて悲哀小説を此に残しぬ

●勾當内侍隠棲跡 左中將殉節の後往生院の畔に住れし

こと太平記に見ゆ或説に三寶寺の南の東隣なりと云り

●新田義貞公首塚 (舊往生院の西南半丁餘) 古來十三社

二尺とて木偶數個 今は天龍寺塔頭を祀り新田公の首を埋めし

所と言傳ふ近年有志者建碑の計畫あり

●小倉山 (上嵯峨の中) 清涼寺の西に峙つ貫之の歌 夜夕小

倉の山に啼く鹿の聲のは古名所たることを發表せり

●二尊院 (小倉山の麓) 嵯峨上皇芹川野へ行幸の時無

上勝地なりとて承和年中當寺を創建し玉ふ本尊發遣釋迦
 來迎彌陀を安す二尊院の名法然上人影は足引の御影とて名
 高し墓地に 嵯峨 土御門 後嵯峨三帝塔を始め三條忠
 成公墓、同實美公遺髮塔、伊藤仁齋、同東涯先生墓等あり
 ●天龍寺 (下嵯峨) 濟家五山の一開基夢窓國師創立曆應
 二年足利尊氏の 後醍醐天皇追福の爲に建し時金龍の地
 に出し祥あるに依り天龍と名く此地は檀林皇后建立檀林
 寺の舊趾にして其後 後嵯峨 龜山二皇離宮となし玉へ
 り佛殿等は元治の兵燹に罹りたれと尙は西山に冠たるの

一大名利なり林泉は國師の構造にして近く龜山を控へ併
 せて嵐山を望み絶奇の人工は玄妙の自然と相俟て奇趣極
 りなし 二皇の御火化所は龜山に在り法華堂御陵は假法
 堂の東南に相並ぶ

●臨川寺 (同所の東大堰川の北岸) 禪家十刹の一 後醍
 醐天皇の皇子帥宮の別墅元龜山法皇の仙居を遺命に依り梵宮とな
 せり開山堂は夢窓國師漆骨の所堂後に帥宮御石塔あり
 ○車折神社 (同所の東) 高倉天皇の侍讀正五位清原賴
 業公を祭る即ち其遺骸を葬むる所なり 車折の名の出處に付
 異説あれどしるさず

●鹿王院ろくおうのん (同所の東)康曆年間足利義滿、普明國師を開

基として寶幢寺を創し寺後に一小院を建て鹿王院當初白鹿

故にと稱す今當院のみ存れり寛文中庄内藩主酒井忠知再建す舍利佛は源實朝

靈夢により宋より傳來せりと

●小督墳こさとのつみ (大堰川北岸竹林中)高倉帝の陵側清閑寺北にも墳

あり此處は隱棲の遺跡ならむ東に橋あり琴ひさると云三軒

茶屋は北に在り嵐山の觀花に好き旗亭なり

●龜山かめやま (天龍寺後)其容宛然龜甲の如くなるを以て名け

しものか對嵐山房山中信天翁の別業なりしが今東は再建中、その本願寺の有とあり昨秋燬失す

東に在る三秀院さんしゅうのん天龍寺の子院と共に嵐峽の花を望むに佳なり

●大堰川おほいせ 丹波に發し本州西部を環り淀河に入る其上流

を保津川と稱し奇岩怪石水流を激し湍となり灘となり淵

となり洞となり千變万化、兩岸又躑躅花多く絶景一々記

し難し本州に入り水尾、清瀧を合せて大堰川と稱し桂以

南は桂川とよべり花時遊船波面を填め絃歌相和し其盛な

る往古三船の御遊も及ばじと覺ゆ香魚の風味も亦賞すべ

し渡月橋は嵯峨より法輪寺へ渡る木橋なり風光絶佳

●嵐山あらしやま (大堰川南渡月橋西)龜山帝芳野の櫻を移し玉ひ

しより本邦無双の名所となりぬ艶陽氣麗かに風和かなる
 の時香雲爛熳、暖雪氤氳など幾多の形容詞も到底其光景
 を寫す能はじ要之洛陽三春の勝事之に過たるものあると
 なし管に花のみかは月に宜く雪に宜く縁陰亦愛すべく就
 中紅於の頃は宛然天造錦屏を列ねたるがごとく高雄の絶
 景にも多くは劣らざ又山上に古城跡細川政元の臣香西山下に
 櫟谷神社元と松尾七社の一溪間に戸灘瀨飛泉あり

●大悲閣 (渡月橋西八町許)慶長十九年吉田了以の建立
 今尚ほ其木寺は翠微の間に在り花時此に来像石碑あり本尊千手観音なりり茗を乞て醉を醒すもの多し

●法輪寺 (渡月橋南)眞言宗建立天平年中中興道昌僧都
 本尊虚空藏弘法大師の開眼世俗童兒に智福を授け給ふとて男女十
 三才に至れば例年四月綺羅を粧ふて詣づる者多し

○松尾神社 (上山田村)官幣大社、祭神大山咋命市杵
 島姫命鎮座大寶元年一書に上古歴聖の敬信篤く鄭重な
 る繪旨のかまぐ枚擧るに違あらず源右府も亦社頭に詣
 で黄金一百両神馬十匹を獻せしと云社記に當社の神徳は
 社稷、弓矢、壽命、酒徳に顯著なりと醸酒家の尊信深き
 も當然なり祭儀は松尾祭とて城西の一大美觀境地別雷

峯下に在て長松喬杉大古の風情あり櫻楓の佳觀もあり

○月讀宮 (同所より南二町松室) 高皇產靈尊、月讀命

を祭る遠く神代の蹟座なりと常初桂川の水濱に在り齊衡年中此に遷す舒明天皇二

年神石神功皇后産月を延し玉ひし石を筑紫に求め當社に納め玉ふ

●西芳寺 (葉室) 禪宗濟家開山行基一書に開基は聖德太子中興は行基なりといふ空

海も高岳親王平城皇子にして羅越國に薨じ玉ふと疎石の夢窓錄に記せりも小松内府も最明寺

殿も此に住ひ夢窓は之を再興す林泉今は僅に残岩剝石の

間に國師潛神の痕を見る

●淨住寺 (松室村) 黄檗派禪宗なり開基詳かならむ興聖

の中興されしも元弘の兵火に焼亡し其後二百餘の星霜を

經て元祿年中鉄牛禪師堂宇を再建し今の宗となれり本尊

如意輪觀音は天竺佛なり禪師の塔碑は堂後に在り

●谷の地藏 (同所字谷) 衣笠山此地昔衣笠内大臣家良公の山莊あり地藏院と號

く細川頼之再興して天台を禪と改む堂南に其墓あり

●西山御坊 (下桂川島村) 久遠寺と稱す本派本願寺の別

院にして覺如上人第三世、本堂の西北の開創なり

●長福寺 (東梅津) 禪宗中興月林和尚元朝文宗より佛惠智鑑大師の號を受け寂後

後村上帝より普光塔頭別傳院に花園帝御塔あり藏龍院の竹林

中に吾嬪、與五郎の墓ありと

▲梅津製紙場長福寺より梅之宮に到るの間に在り元は京都府の所管あり桂川を隔て製草場と相對せり

○梅宮神社(西梅津)官幣中社本殿に酒解神、大若子神、

小若子神、酒解子神四座相殿に瓊々杵尊、火々出見尊、

橋清友公、仁明皇后を祭る 嵯峨帝の皇后橋氏皇子な

きを愛ひ玉ひ其祖神の故を以て當社に祈り 仁明帝を舉

げ玉ひ 帝の御宇社を此處舊地不詳に遷し玉ふ事共に社記に

見ゆ神境水あり樹あり平地に在りと雖も林泉自から幽趣

を備ふ初夏燕子花開くの候風光最も好し

●廣隆寺(太秦村)眞言宗 推古天皇十二年秦川勝上宮

太子の命を受けて建立以降一千三百 其本名を取り廣隆寺と

云他に尙ほ承和年中道昌僧正之を再興す現今建物は樓門、

講堂藤原信賴勅を奉 太秦殿、太子堂聖徳太子手刻廿三才の像を安す

とする石假金堂元の祖師堂文明年中の再建、本地藏堂 假金堂と同時の

燈籠あり尊藥師仰は異様吉祥女に似たり 桂宮院太子堂より一町許西に在り八角造り千二百九十

年前本尊は世に埋 木の地蔵と云ふ 餘年前の建築にして平安第一の古堂宇あり附の

陽帝の献せし阿彌陀並に太子自刻十等なり又當寺には古來古雅な

る祭式あり牛祭とて名高し

○大酒神社(廣隆寺の東)秦月王秦始皇の裔 秦酒公月王 六世孫 漢

織女、吳織女を祭ると養蠶機業の神として拜崇せらる公酒

絹布を製して雄略帝に献る絹布宮中宇豆高く麻佐るといふ義にて宇豆麻佐の姓を賜ふ事社記に見ゆ

○木島神社 (同所の東) 祭神天照御魂 雄略天皇の御宇

鎮座せりと云承久の亂平 判官 胤義戦死せしは此邊也

●高山寺 (西院村東端) 淨土宗本尊地藏菩薩は子安地藏

浴陽六地 として名高し安産の奇驗あり足利義政歸依せしと

京都より西南乙訓郡

○向神社 (向日町) 皇祖神武天皇を奉祀すと云、養老二

年鎮座にして府社なり同地の産砂神にて郡中大社なり

●長岡宮城大極殿遺址 向神社の東離冠井村字大こくで

んと稱する地に在り即ち 桓武天皇帝京都へ遷し玉ひし前

皇居の在し所なり本年奠都紀念祭あるに際し有志者相諮

り長一丈五尺の一大石碑を樹て遺址を表彰せり島院舊跡

は同所南一町許上植野村字島坂の東竹林中にあり

○大原野神社 (大原野村) 官幣中社嘉祥三年左大臣藤原

冬嗣公奏し請て春日祭神を此處に移し奉る

●勝持寺 (同社西) 世に花寺と稱するは在昔境内櫻多か

りしを以なり役小角の開基にして後佛陀上人再興せらる

往時むかし西行法師さいぎょうぼうしも此こゝに棲すまはれ近古長嘯きんこちやうせん子こも亦閑居またげんきよせり

●金藏寺きんざうじ (坂本村山上)養老二年行善大徳開創す西蔵倉さいざうくら

寺てらと呼よは相傳あひたづなふ 桓武帝くわんむてい曾つて皇城きやうじやうの四方よつはたに岩倉いはくらを作り玉

ふ其一そのいちなりと

●三鈷寺さんこじ (同所南灰谷村山上)はじめ往生院おうじやういんといふ承保

元年げんねん源算上人げんざんしやうじん建たられ其後そのち慈圓大僧正じゑんだいにそうじやうぢ此こゝに住すはれ證空しやうくう師しに

讓ゆづられ證空しやうくうを此寺こゝの住持ぢゆうぢとなされたり故ゆゑに證空しやうくうを世よに西

山上人やまの上の人とよべり同上人どうじやうの人を葬はなむりし華臺けだい廟みやう並ならに宇都宮うつのみや蓮生法れんじやうぼう

師埋骨塔しまいこつたうあり

●善峯寺ぜんぷうじ (同所南小盤村)一に長岑ちやうさんに作る長久三年源算

上人じやうじんの開基かいきにして慈圓大僧正じゑんだいにそうじやうぢ及び道覺だうかく、慈道じだう兩法親王りやうぼうしんも

住玉ぢゆうぎよ以後山ちのちのやまに其御墓そのみたまあり寺てらは小鹽山こしほのやま上に在あり眺望てうぼう絶佳ぜつが也なり

●大歳神社おほとせじんじや (灰方村)延喜式えんぎしき大社だいじやなり里人さとびと栢かしわの森もりとよぶ

●光明寺くわうみやうじ (粟生村)淨土宗じやうどしゆ西山派しやんざんは本山ほんざんにして蓮生法師れんじやうぼうしの

開創かいくわうに係かれり嘉六三年山門衆徒さんもんしゆんどう法然上人ぽうぜんじやうじん大谷おほやの庵あんを發はか

んとせしを聞きて遺弟ゐていらい等ら夜棺よるくわんを昇あり來きり安貞二年あんぢんに此地こゝに茶毗ぢあひ

し御墓堂そのみたまだうと稱なづせしが後に今いまの名なに改あらたむ本堂ほんだう、阿彌陀堂あみだだう、

釋迦堂しやくぢやだう、方丈等ぽうぢやうらうあり闔郡かうぐん無比むひの巨剎きよぼつとなれり

○乙訓神社 (井内村) 今村人角の宮と稱す祭神火雷命なり乙訓寺は同村東南今里村にあり又長法寺は粟生の南にあり往古千觀内供の開かれし寺なり

●海印三昧寺 (奥海印寺村) 嘉祥初年道雄大法師の建る所 清和上皇元慶四年入御のことありひかしは定額の大寺なりしも今僅に寂照院の一字のみ存れり

●湯谷寺 (浄土谷村) 海印三昧寺の西南山中なり水觀上人開基一説に三昧寺の子院なりと云本尊觀世音は靈驗ありとて遠近の賽人常に絶せ

○長岡天満宮 (開田村) 靈元法王曾て西小路森より遷し玉ふ社殿なり又八條智仁親王別墅ありし地にして境内大池あり映山紅、梅、楓等多く風景郡中に冠たり

○神足神社 (神足村) 延喜式に載たる古神祠にして同村本居神とす或説に遠津山崎足斯神を祭るならむと云勝龍寺城址は殘墨剝隍今尙神足、勝龍寺兩村の間に在り

○小倉神社 (圓明寺村) 前年郷社に定められ傍近敷村の産土神なり南に圓明寺あり一條左大臣實經公の建られし所又葛原親王墓は其東に在る竹林中の一叢祠をいふ

●観音寺 (山崎) 天王山半腹に在り眺望最も好し相傳ふ

昌泰二年 寛平法皇の開基にして延寶九年木食以空上人

再興せられしとぞ

●酒解神社 (同所) 一名を山崎神社といふ天神八王子を

祭る故に山を天王山とよぶ其北に古城跡あり文明三年赤

松氏の守る所又其南に元治甲子變殉難諸士の碑あり

●寶寺 (同所) 天平年中行基大僧正の草造其後 一條天

皇御宇大江定基入道再建せられし古刹也南に妙喜庵あり

天正十年豊公在陣中千利休茶を献りし茗室を今に保存す

○離宮八幡宮 (同所) 往古河陽離宮の在しを以て斯よぶ

西に山崎停車場あり南に關戸明神あり城、攝の境なり

○與村神社 (水垂村) 俗に淀姫社とよぶ豊玉姫命、高皇

産靈命、速秋津姫命を祭る神地淀川北岸にありて古歌に

荒木田社と詠るは此神林ならむといふ

○羽束師神社 (志水村) 式内大社なり今數村の産沙神と

す神林羽束石社は古歌に詠り川原寺舊址は同社の西なる

菱川村に在り大同二年伊豫親王等幽閉せられ玉ひし所

○久何神社 (久我村) 古書に久我森と見ゆるは是なり久

我水關趾同社の東なり太政大臣源雅實公別莊の跡なり

因に云山崎より久我に遷する間道わり久我殿といふ此より桂川を渡り東にいたれば伏見に出て北へ進めば上鳥羽四塚を経て京都に入る

京都より南、伊紀郡

○吉祥院天満宮 (吉祥院村)菅公の祖父清公卿が 延暦

帝より賜はりし舊地にして後公の夫人吉祥女の閑居せら

れしより竟に地名となりしと又公の神靈を鎮齋しは當社

その嚆矢なりと云公左遷の後承平年中 朱雀帝公の像を刻して祀り玉ひしとぞ

●寶相寺 (上鳥羽)法華宗開基大覺大僧正從師松永貞 總の墓あり

●懸塚 僧文覺が袈裟の爲に築く所なりと一は上鳥羽に

一は下鳥羽に在り二所に在るには種々の評説あり

○鳥羽離宮故跡 (下鳥羽竹の山)昔時の全盛舊記に見ゆ

○城南宮 (下鳥羽)とは通稱皇城の南に在を以て也にして公定は眞幡

寸神社延喜式に府社なり社傳に神功皇后征斬の御纛を記

り併て神功皇后、八千戈神を祭れりと其後 桓武帝桓武帝奠都

の日伊勢、八幡、加茂、松尾、平野、稻荷、春日七社を

合齋し玉ふ 曆聖の崇敬篤く 先帝も鳳輦を枉させ 今

上陛下も先年大禰南下の際駐蹕し玉ふ又慶應四年官兵の

幕兵を防戦せしは當社の社なり

(注意) 郡下東洞院を南下して竹田(城南宮の東北)に至り伏見に通せ之を竹田街道とす

●不動院 (竹田村)鳥羽帝の御別願にて創建し皇城鎮護の爲に不動明王を北向に安置す北向不動とて有名なり

●安樂壽院 (不動院の北)眞言宗 鳥羽上皇離宮の北殿を棄て精舎となし玉ひし所なり現今の堂塔も亦見るべし

鳥羽帝 近衛帝陵等附近に在り

●東福寺 (伏見街道一の橋南)濟家禪宗五山の一開基聖一國師の本願九條道家公頼經頼兼雨將軍の助を得て

嘉禎二年起工建長七年落成刹は擬し東福と名く 大和の法隆寺

と共に古名藍なりしが明治十四年佛殿法堂方丈等莊嚴の大部分を焼失せり然れど今尚ほ洛南の大寺として見るべし今境内の著名なるものを擧んに六波羅門南總門を入り二町

り平相國六波三門の筆覆椽の彩繪は光殿司舉殿司の合作 假本堂 元の羅の舊門なり

よして古今無双の大幅涅槃像(堅三丈六尺一丈二尺)十八天の圖双幅(堅三丈六尺一丈二尺)あり共々光殿司の筆名高し又壇上は七尺有餘の一大

木造の佛掌りり即ち移 其北に通天橋紅葉を以て聞ゆ下流は横ふを臥新

方丈の東北に即宗院中井前知事の墓及東征殿亡之碑(薩藩の招 溪を隔て南の山上に十三重石塔の發端 あり祖堂 明山國師を葬る所

月輪殿本廟五社山の光明峯寺殿墓餘山上の茶園中 仲恭天皇陵

同東南一崇忠碑山口藩戦死者の招魂南明院靈舎六波羅門の南旭姫(豊町餘山殿)の室)俊成卿墓同所を距ると二町許の山中兆殿司墓同等なり

(注意) 京都より至るは伏見街道即ち今の本町通よりす直に當寺して稻荷以下附近を廻覽するも亦便宜あり而

○稻荷神社 (伏見町字稻荷御前町) 官幣大社 祭神倉稻

魂命、素盞雄尊、大市比賣命、大己貴命の四大神五十猛神

狐津姫、座推古帝の卅二年なりと往古は三が峰に上中下の三社ありしが永享年中此は遷す今尙ほ

山中に小祠あり俗に古來朝野の尊信深く世に五穀の祖神と

稱し都鄙參詣の繁さ他に多く其比を見む本社南側に荷田

東磨祠東磨は當社司羽倉氏より皇道復古の志より其傳は玉璽に詳し鎮齋は近年官命より同墓は南方一町

許巖の山に在り又本社山上に 後醍醐天皇御製鳥羽玉のくらき開路

迷ふなり我まかさなん三のともしひ碑あり

●石峯寺 (稻荷山の南) 開基黃檗千呆和尚建立寶永年中

●寶塔寺 (同所の南) 法華宗舊極樂寺真言の僧良桂が日

像上人に歸依して改宗せし所上人自書題目塔の遺骨を分

取せしを以て俗に御塔と稱を建しより寶塔寺と呼ぶと日像上人茶毘所は

中門外の北側に七面社は後山に在り

●瑞光寺 (同所の南敷町) 法華宗世に深草の元政とて名

高き上人の開創せし所に元政庵といふ上人の像は本堂

に墓は方丈新の西竹林中に在り當時の北門前俗に番神の岡と云は昭宣公の墳ありと云是れより程遠からせし眞宗院、嘉祥寺(歡喜天を祀る昔は一大名寺たり)十二帝陵、仁明帝陵等あり

○藤森神社 (伏見鳥居前町) 府社例祭六月五日祭神素盞雄尊、日本武尊 神功皇后外八座稻荷の社を今の地に遷すに當り

當社は此處に移る社傳に 光仁帝皇子早良親王蒙古來寇の退治を祈り玉ひて奇驗ありと本社を与兵政所と稱し又古來撰甲騎馬の祭式あるも此か爲なり

●墨染寺 (藤社の南) 法華宗再興日秀上人豐公は原遇せらるる當時は當寺も全盛いづかたな一今尙は太閤此地は昭宣公の薨去を悼める歌草

の野邊の櫻心ありは今年起れる深草野の一部なり境内に製はかりは墨染よとけ

植に係る墨染櫻あり

○注意 當寺の東を一直線は八科嶺(古御香宮、佛國寺等あり)を越ひ六地藏山出て黄檗萬福寺を経て宇治に到るを得べし

●伏見町 (郡の東南部) 古歌に伏見野と詠める荒原なりしが豊太閤此地に城を築きてより漸次今日の繁盛を致す

幅員南北一里餘東西十四町餘戸 水に舟楫の便を占め陸路は市都數四千三百餘人口一萬七千許と相聯續す其距離凡三里半強銀行會社は固より第四師團の分營あり

て州内第二の都會たり

○御香宮神社 (伏見町) 祭神 神功皇后 仲哀天皇 應

神天皇相殿に宇倍大神外五座 清和帝の御宇香水涌出の

瑞あり御香宮の勅號を賜はる 後宇多帝行幸元寇の討平
を祈り玉ひ豊公も亦詣拜して征韓の勝利を祈る桃山築城
の時八科嶺に遷せしも東照公新に神殿を建て舊地に復せ

南門内西側ニ文
珠九助碑あり

其他市街中に金札神社天太玉尊を祭る豊公曾
桃山城の守護神とす 油懸地藏等著
名なり又豊後橋一ノ瀬月は東南隅奈良街道に在り月橋院

宗は其北にあり古來觀月の名地なり

◎桃山 伏見町の東一帯の山なり文祿三年豊臣秀吉公の
金城を造營せられし舊址 今尚ほ地名當時諸將の邸趾を呼ぶもの多
く紅葉は本丸跡の東南に小池を存せり

にして慶長五年鳥居元忠は此に戦死す今は全く茶圃蔬園
となりたれと昔物語は桃山蘿蔔の名と共に喧し山上に金
城あり眺望廣瀾風光絶佳一瓢を携て登臨するに宜し
桓武天皇の御陵 此山の北位最勝景の處に在り申すも畏
けれど 今上陛下大に追遠申孝の義を天下に明にし近
年大に重修を加へ玉ふ

南山城

久世、織喜、相樂
の三郡を總稱す

◎巨椋大池 (小倉村)紀伊久世兩郡に跨る蓮花に名あり
往時豊公征韓の役彼地より移植せしと傳ふ 周圍四里
十一町餘

◎淀河 桂、鴨、宇治諸川を合せる有名の大川なり之に架せる淀橋は紀伊久世而郡の境に跨れり豊公の時初めて大橋小橋孫橋を設く現今の淀橋は即ち其小橋なり

◎淀城址 (淀町) 淀城は岩成主税助の築く所にして織田信長と此に戦ふ徳川の世伏見の城を移して松平定綱稻葉正知相次て城主たり維新後荒廢し只今稻葉家祖神の祠近年あるのみ淀君の宮曾て此に居り世に名高き水車は當時城中の便に供しなるものなりといふ(以上久世郡以下綴喜郡)

◎八幡山 (八幡町) 男山一に雄雄山に作る又香爐臺と稱し頂上を楢

嶺と呼ぶ山麓より絶頂に到る凡十五町、四顧近畿の野を指掌すべく山秀水麗風光明潤なり南北朝以降屢々汗馬喋血の區となりたれど八幡宮鎮座の靈地として万古巍然たり山の南東河内境に洞が峠あり山下の東に八幡町あり西に橋本驛あり淀川を隔て山崎と對

京坂間乗船の男山参詣者多くは此に上陸す

○男山八幡宮 官幣大社 清和帝貞觀初年橋良基に勅し

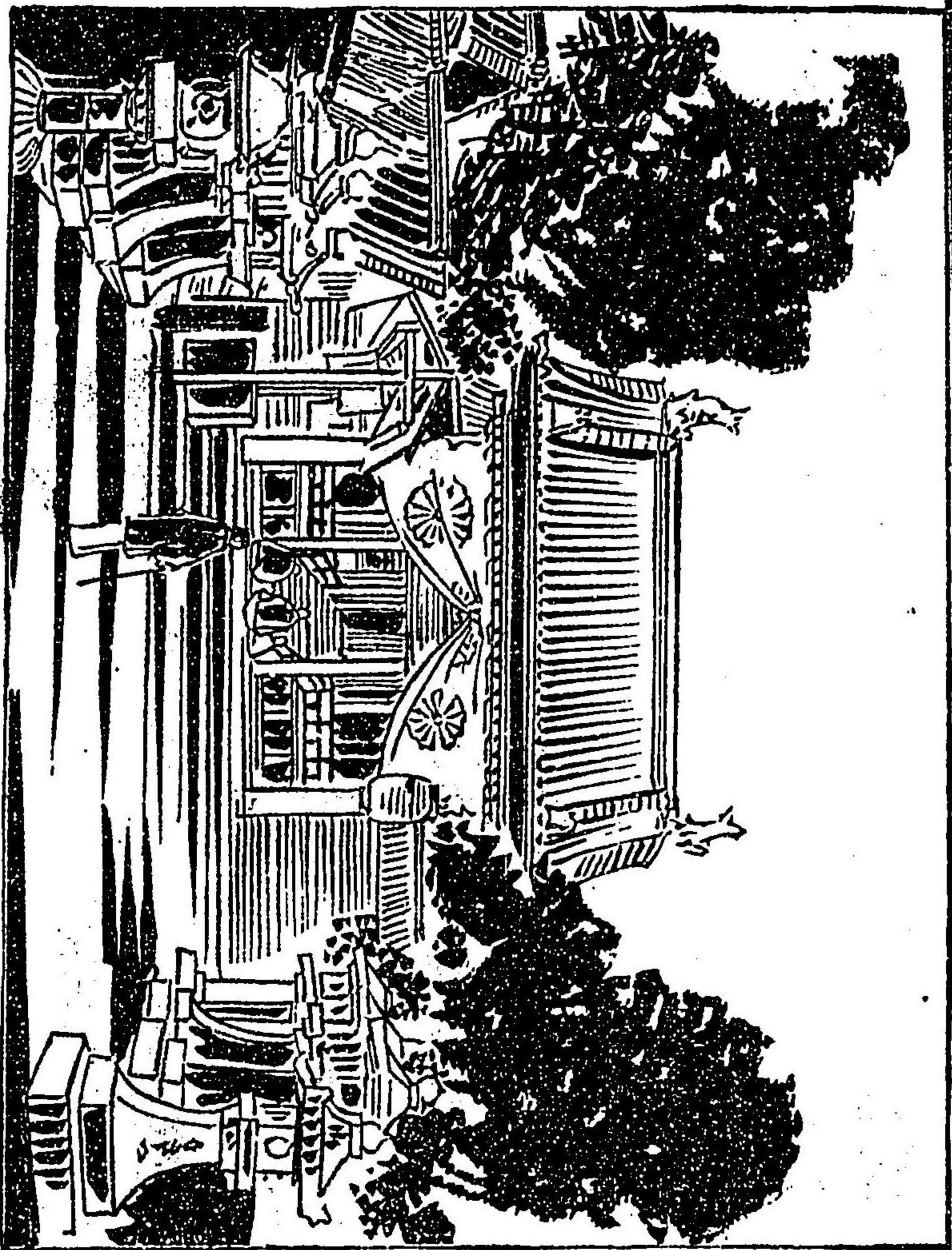
て宇佐神宮に準じ六宇の神殿を経營し玉ふ天慶五年朱雀帝の

御將門誅滅の報賽あり是れ石清水臨時祭の起原也圓融帝天元二年行幸し

玉ふ幸の始め也後三條帝延久二年放生會の儀を行幸に準じ

玉ふ爾來恒例となり今男山祭（九月十日）と稱せらる創立以降
 登極の初め必老幣を奉り早災兵亂外寇には必老祈願した
 まひ世に本社を第二の宗廟と稱するに至れり古來將家の
 尊敬も亦篤くして源氏の武士は皆氏神となせり現今の神
 殿は徳川綱吉の再造にして金碧燦爛四邊眩く神徳の彌高
 きを覺ふ殊に内外殿の間に架する鍍金の雨樋は黄金の外
 種として著名なり其他山中攝社多し

◎小野頼風塚（八幡町字金剛寺）女郎花塚（字清水より）に就き
 哀なる物語あり案をるに古今集の歌女郎花うと見つゝそゆら



八幡神社

へおるより出でし假話ならんか

●正法寺 (同町字志水) 淨土宗 後奈良帝の頼願寺なり

●妙勝禪寺 (田邊村字新) 禪宗開基大應國師創立正應年

間中興一休和尚本尊釋迦佛酬恩庵は和尚の住はれし方丈

和尚生前我鬚髮を植にして墓は其東に在り

●甘南備神社 天神森等同村に昨岡神社は飯岡村に在り

●筒城故都址 (普賢寺村多々羅の西北五町許字郡谷) 繼體天皇五年十月都を

山背の筒城に遷し玉ふと古紀に載たり (以下相樂郡)

●祝園神社 (祝園村字宮の前) 郷社健御雷命、齋主命、

天兒屋根命を祭る

祝園は即ち波布理曾能にして 崇神帝の撰安彦を 輪韓川に破り死屍多く水上に浮ぶ故に羽振園と云

●藤原百川公墓

(相樂村宇吐師) 村内に二個の古墳あり

一は小山の上に舊形を保ち一は田間に一小區域を存す共

に百川公の墓と傳ふれとも考証に乏しく查定し難かりし

が今や田間の墳に定め地域を擴めて修築するとなり墳に

大小二あるは其一何か夫人の墓なるべし

●木津 大和街道の一驛にして奈良に到る二里半京都を

距る九里弱、南山城の一繁華地たり 始め泉里と稱せし對南都 大佛殿創建の時諸國より

運ぶ材木の此に着し より木津の名起れり

●木津川

二源あり一は大和 大河原の東に會し木津に至り

更に北流して淀川に落つ古歌には多く泉川とあり之に架

せるを木津川橋といふ

木津の南に一の坂あり山城大和の國境なり念佛石 東に

鹿背山あり山上に城跡を存す 世に木津 萬葉集以降多く古

歌に見ゆ

●泉橋寺 (上狛) 律宗天平十三年木津川架橋の時行基僧

正が供養を修する爲に建立せし所にして 聖武 孝謙

淳仁の三帝相尋で行幸し玉ひぬ當寺は行基が畿内に建立

せる四十九院の一にて當初は諸堂輪奐の美を盡せしとぞ

●恭仁都故跡 (鹿背山傍瓶原) 聖武帝の故都なり按ざる

に山東を左京とし山西を右京とし玉ひしものならむ 土

御門帝の御製に「吹く風に昔をのみや忍ぶらんくにの都

に残るたち花」と見へ又兼氏の歌あり「泉河いつより人の

すみ絶て恭仁の都はあれはしめけん」

●瓶原 (木津の東北一里許) 百人一首 泉川の原わきて流る

らん 紹介されて廣く世の童幼にも知れぬ

●窈原故宮址 (同所宇岡崎井平尾の間) 和銅年中及び天

平年中壘原離宮へ行幸し玉ふ事舊紀に見へたり又相樂願宮は字枝村の東靖蛉平といふ所その墟なりといふ

國分寺同所字河原、開山行基 聖海住山寺聖武帝の勅願所中興解脫 光明山

眺望好山中 高倉宮社榑倉村字鳥居、以仁王が平切にまんに家郎黨の矢に斃れ給ひ一所 壁滿寺同村字綺田何故に

や寺職を訓音片讀す奇 神童寺袖振山に在り風光明姫吉野に擬して北吉野と稱す

○岡田鴨神社（加茂村字北村）郷社、祭神建角身命 神

武天皇の前軍を率て大和葛城嶺より漸く山城國岡田の加

茂に遷り山城川に隨て下り葛城川と加茂川と合ふ所に坐

ます云々風土記に載たるは此地なり岡田國神社（同所字

大野)は祭神生國魂尊、譽田別尊外三座 齊明帝五年九

月の鎮座なりと又往古岡田離宮此地に在り

●笠置山 (郡の東部)書つくるまでもなし我日本の國民

誰とて 後醍醐帝行宮のありし所なるを知り侍らぬ者な

からん讀み奉ればいと悲憤す鏡に載する御製「うか

りける身を秋風にさらはれて思はぬ山の紅葉をそみる」

扱もく御嘆かはしき事にこそ彌勒石の上方に行宮の故

址はあり木丸二の丸と呼ぶは薬師石の傍より登り地稍々

平なる處に南北相並ぶ陶山小見山等の郎黨夜討の道は山

後に在り數百丈の峻壁老苔滑かにして泉川其麓を環流す

全山の形概陸機の千崖秀を競ひ万壑流を争ふの趣あるに

對して感慨の情いやまざる山中奇勝の多きに至りては逐

一數ふるに違わらば近年山石を彫行宮の遺址を表せり

●笠置寺 (同山腹)眞言宗開基解脱上人 天武天皇當山

に遊獵し玉ひし時奇異の事あり着御の笠を置て後日精舎

を建つるを誓はせ工事成るの日笠置寺と號け玉ひしと傳

ふ去れど今は復た昔の如くに盛ならむ

是れより踵を回して歸路に就くに當り事宜により此方

位に見るべしは淨瑠璃寺小田原、多田滿仲の草創俗に九林佛と稱す鷲峰山和東の東北

喜郡の境に屹立す高さ千五百廿尺眺望絶佳なり空餘峰其東に並ひ山中名區勝地甚だ多し金胎寺同山上、白鳳四年役小角創立眞言宗

百丈山大智寺東北、湯舟村、開基大禪師、東願門院の再建等なり更に綴喜郡の東

北部宇治田原四面皆山の別天地に到れば 天武天皇祠異様なる粟を生じ古來當國

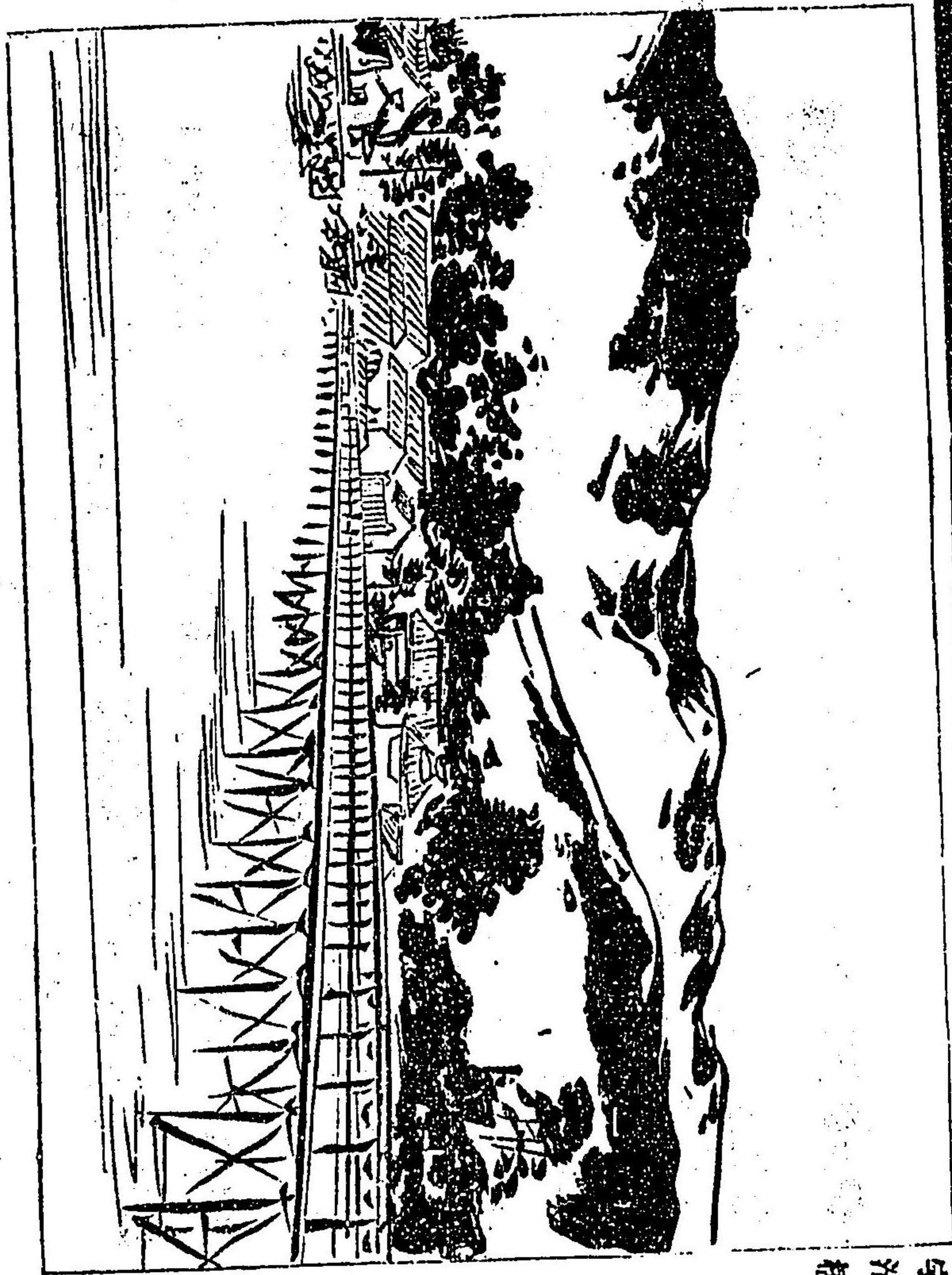
七不思議田原皇子廟字荒木、禪定寺、字禪定寺、風景好し猿丸太夫祠同上の東奥山田

是より猿丸峠を經、藤原信西塚字大等、わりの又同郡の南西部井

堤地方に到れば玉津岡神社下照比賣命外、四座を祭る玉水橋諸兄公遺愛の名水玉の井と録

める古井手玉川本邦名所六、玉川の一玉井寺等あり此あたりは諸兄公

別業の在りし所故に世に井堤の當時は玉川の堤に多くの



字治橋

榎棠を栽る花時の風光いはひかたなく又鴨長明の無名抄には井手の蛙とて夜ふくるほどに鳴きつれたるはいみじう心も清みて物哀なる聲にてなん侍りけると見て古來名高き勝區なり（此より更に奈良街道を上り久世郡に出で宇治に進むには小倉巨椋神社伊勢田神社等ありの南廣野より右折して東に向ふべし直行すれば伏見に入る）

○久世神社（久世村字鷹坂）郷社日本武尊を祭る

◎宇治町（久世郡の東端）宇治川を控へ朝日山に臨み山水清秀の稱あり古來此地方一帯宇治川を總て宇治里と稱

し専ら茶の栽培を爲して其名世に顯はる一年の歳入無慮十萬圓を下らずと云期に至れば老少の婦女擧つて野外に出で鄙びたる俗謠を音節おもしろげに歌ひながら茶葉を採摘す宇治の茶摘とて來り觀るものあり(以下數項宇治町の分)

●宇治川 琵琶湖より發し宇治を経て淀川に入る其間鹿谷、米かし、などいふところ水流極めて狭く急湍奇岩怪岩の間を走りて奇觀いはんかたなし治承、元曆、承久、延元の亂此川を隔て雌雄を争ひしとは正史に詳なり又西、久世郡より東、宇治郡に架せるを宇治橋といふ長六百五

十尺幅 大化二年道昭和尙橋寺の始て之を設け現今の橋は近年の改造に係れり又宇治川の先陣とて源平盛衰記に録せる佐々木梶原の驅け出しは此邊なりと言へど今定ならぞ ●平等院 天台淨土二流本願藤原頼通宇治開創永承七年

此地始め河原左大臣の別業陽成宇多 朱雀 三帝の離本堂は宮となり長徳中御堂開白請て山莊と爲し其子頼通に至て寺と爲る即ち世に名高き鳳凰堂にして我國無比の巧妙なる古建築なり左右の高閣架廊を兩翼とし後背の廊を尾として鳳凰に象り屋上に雌雄の銅製鳳凰高三尺許を飛翔せしむ楣間に廿五菩薩四壁並に三方の唐戸に淨土九品の説相を畫爲成

上方の色紙形には觀經の文を書す中納言俊房卿の筆境内に扇の芝
とて治承の變源三位軍敗れ高倉宮を落しまゐらせて自ら
露の命と消ゆ果てし所あり風致は宇治川の流を帯び喜撰
嶽に對して自然の妙あり其他同地に橋姫祠、縣神社、等
あり宇治より伏見に到るには宇治川堤(五十町許)を経て豊後橋に到るべし

●橋寺 (宇治橋東)律宗にして本尊地藏菩薩なり境内に
宇治橋の斷碑あり好古家須らく一見すべし

○宇治神社 世に離宮八幡と稱す祭神菟道稚郎子尊鎮
座 仁德帝の御宇別子上社あり 仁德兩帝を祭れり 應神

●興聖寺 本朝曹洞宗最初の靈場なりと云末寺五十餘字あり創立天

福元年開基道元大師本願正覺禪尼 四條帝興聖寶林禪寺

の額を賜ふ中興万安和尚再建本願淀城主永井尚政慶安二年本

尊釋迦堂宇宏壯清潔境内幽雅にして十景あり門前の棗棠

花名高し其他四時の風趣な、めならむ

●朝日山 興聖寺の後山なり早曉丹霞翠靄の景描き難し

京都より南東、宇治郡

●三室戸寺 (元三室村)天台宗西國札所十番の一なり

●萬福寺 (大輪田村)黄檗一派の本山にして郡中の一大

名刹なり黄檗山と號す開基隱元和尚は明國福清の人萬治二年台命により此地を賜ひ寛文八年建立す堂宇廊門等總て明代の遺制なり同十三年和尚示寂の前一日 後水尾帝大光普照國師の號を賜ふ黄檗十二景とて師の詩あり又當寺より木幡を経て伏見に遷る途中有名なる六地藏あり

○波許多神社 (五箇庄) 郷社正哉吾勝々速日天忍穗耳尊瓊々杵尊 磐余彦尊を奉祀せり又木幡村に同名の社あり延喜式に載する三座の一にして今も同社格なり

●法界寺 (日野) 參議日野家宗卿の本願に依り傳教大師

の開基なり諸堂中僅に火災を免れたる阿彌陀堂は千年以前の建築物にして美術家の好摸範たり本尊は日野薬師とて名高し又此地に平重衡の首塚、長明方丈石等あり

●一言寺 (醍醐村字庄の口) 阿波内侍の創立なりといふ

●下醍醐寺 醍醐帝の勅願に依り聖賢尊師の開基せし所眞言宗修驗道弘通所なり 山といひ當寺を當山とよぶ 境内に三寶院あり尊師の住房なりしが後攝家連枝の住居する所となり義演座主の二條晴良豊公と交り深く爲に客殿を設け公來て當山の櫻花を賞せらる世に醍醐の花見と稱し今に美事

とせり 客殿は元と山腹に在り花見山は東北方の山をいふ

●上醍醐寺 下醍醐寺より登る三十七町の山上に在り上

下雨寺共に延喜四年の開創にして西國順禮札所の十一番なり

●笠取山 (醍醐の東) 西行法師の「村雨はれぬ笠取の山」

と詠しは此なり南に岩間寺及石山寺に到る峠あり

●隨心院 (小野) 眞言宗門跡開基僧俊阿闍梨にして其後

攝家の連枝世々住職せり張り抜き地藏尊は小野小町が此處に住ひしとき艶書を集めて造りたるものなりと傍近は

小町の水、少將の通路、文塚小町の地を埋めし所計少將石を積んで塚返の敷を算へし所等あり

●勸修寺 (山科村宇勸修寺) 醍醐帝の母后本願を以て範俊僧正を開基とし延喜四年の勸立なり本尊は延喜帝と御等身の觀世音歷代の門主多くは法親王にして近年山階宮王殿下督て法務を執王ひしなり世に勸修寺門跡と稱す眞言宗の一本山にして本郡の古名刹たり林泉は今や、舊形を損したりと雖も弘法大師の作にして世に氷室池十五勝と稱して其名喧々たり又其東に當り山科停車場あり

●坂上田村麿墓 (栗栖野の南)近年までは勸修寺道の東三十間許を距り茶園の間に叢爾たる一古墳なりしが有志者相謀り大に修造を加へたり

○岩屋神社 (大宅村字中小路)郷社天忍穗耳尊、栲幡千千姫命、饒速日尊を祭る千五百年に垂たる舊祠なりと

●大石良雄宅址 勸修寺より西北七町許岩屋神社華表前の北竹林中に在り近世碑を建て名跡の不滅を謀れり

●元慶寺 (北花山)往古は 陽成帝の勅願所なりとぞ僧正遍昭も嘗て此に住はれ其墓今尙寺の南にあり又 花山

帝の竊かに宮中を出て御落飾し玉ひしも當寺にして名高き琳宮なりしも今は僅かに昔を忍ふばかりとなりぬ

●山科別院 二所あり一は東派にして竹鼻に在り一は西派にて東野に在り共に本願寺の別院世に東西御堂と稱す

●蓮如上人墓 西御堂の西北二町許に在り又實如證如兩上人の墳は同別院の南に相並べり

●音羽瀑 一に布引飛泉と云即ち音羽川の水源にして音羽山中に在り大塚村より法嚴寺に達る路の半ばなり

●法嚴寺 (山科村字小山)寺傳に行叡居士登天の遺跡なり

りと云延鎮法師の開基なり當寺は半尾山腹に在り頗る風景宜し更に山上に到れば琵琶を下瞰し眺望絶佳なり

◎四宮川 とは人康親王此邊りに住せたまひしより起る

名なりと云蓋親王は 仁明帝第四の皇子なればなるべし

水源を古關越の山間に發し南走して宇治川に入る

◎十禪寺 (同村字四宮)古へは人康親王の宮殿なりしを

精舎とせらる天和中眞慶法師再興し明曆初年 明正帝

二層閣を賜ひ又 後水尾上皇の行幸し玉ひし名蹟なり

◎諸羽神社 (同所)郷社にして貞觀四年 清和天皇の鎮

座し玉ふ所なりと古書に諸羽を兩葉に作れり

●毘沙門堂 (同村字安朱)此地は曾て 慈妻御領なりし

を賜はりしなりとて維前までは世々法親王住玉ひし著名

なる精舎なり開基は傳教大師にて中興は公海僧正なり

●安祥寺 (同村字敷)俚俗の高野堂とよぶは紀州野山實

性院の兼帶所なるを以てなり眞言宗吉祥山と號す本尊十

一面觀音を安す本寺は伊勢物語にも出たる名刹にして貞

觀元年樂殿皇妃(順子)の祈願に依り惠運僧都の開かれし

梵城なり

◎御廟野 とは御陵村の地にして日岡の東 天智帝山陵の邊をいふ在昔此に八角形の御厩ありしと云

◎日岡 は京都三條通より本郡を経て大津にいたる官道にして世に日岡峠とよぶ昔時木食上人 大に土功を起し險路を開かれしとて今山上に在る梅香庵を一に木食寺と稱せり明治十年榎村氏當府の知事たりしとき又之を修め行旅に便せり詳細は修路の碑に録せり

袖珍京都名勝廻覽記 終

◎在山城國歷代御陵一覽表

天智天皇	宇治郡御陵村	桓武天皇	紀伊郡伏見桃山	嵯峨天皇	葛野郡上嵯峨村
淳和天皇	乙訓郡大原野村	仁明天皇	紀伊郡深草村	文德天皇	葛野郡中野村
清和天皇	葛野郡水尾村	陽成天皇	愛宕郡樂岡東陵	光孝天皇	葛野郡小松原陵
宇多天皇	葛野郡室門前村	醍醐天皇	宇治郡醍醐村	朱雀天皇	同上
村上天皇	葛野郡上山陵	冷泉天皇	愛宕郡本乾原陵	圓融天皇	葛野郡上山陵
花山天皇	葛野郡北山村	一條天皇	葛野郡谷口村	三條天皇	葛野郡北山陵
後一條天皇	愛宕郡樂岡東陵	後朱雀天皇	葛野郡谷口村	後冷泉天皇	同上
後三條天皇	同上	白河天皇	紀伊郡竹田村	堀河天皇	葛野郡谷口村
鳥羽天皇	紀伊郡竹田村	近衛天皇	同上	後白河天皇	愛宕郡華嚴院
二條天皇	葛野郡隆寺陵	六條天皇	愛宕郡津利	高倉天皇	同上
後鳥羽天皇	愛宕郡大原村	土御門天皇	乙訓郡金原村	順德天皇	愛宕郡大原村

仲恭天皇	紀伊郡 東福寺	後堀河天皇	愛宕郡 今熊野村	四條天皇	同上
後醍醐天皇	葛野郡 天龍寺	後深草天皇	紀伊郡 深草村	龜山天皇	葛野郡 天龍寺
後宇多天皇	葛野郡 上嵯峨	伏見天皇	紀伊郡 深草村	後伏見天皇	同上
後二條天皇	愛宕郡 白河村	花園天皇	東山粟田口	崇光院天皇	紀伊郡 堀内村
後光嚴院天皇	紀伊郡 深草村	後圓融院天皇	同上	後小松天皇	同上
稱光天皇	同上	後土御門天皇	同上	後柏原天皇	同上
後奈良天皇	同上	正親町天皇	同上	後陽成天皇	同上
後水尾天皇	愛宕郡 今熊野村	明正天皇	同上	後光明天皇	同上
後西院天皇	同上	靈元天皇	同上	東山天皇	同上
中御門天皇	同上	櫻町天皇	同上	桃園天皇	同上
後桃園天皇	同上	光格天皇	同上	仁孝天皇	同上
孝明天皇	同上				

聯合府縣東の部

滋賀縣(名邑) 大津郡 膳所 水口 甲賀郡 彦根 大上 長濱 坂田 八幡
 蒲生 日野 同 ○ 日吉神社 官幣大社 滋賀郡 坂本村 白鬚神社 同郡 川村 飯道神社 甲
 郡 飯道 兵主神社 野洲郡 佐々木神社 蒲生郡 常代 多賀神社 犬上郡 筑摩
 神社 坂田郡 延曆寺 滋賀郡 坂本村 西教寺 同郡 園城寺 別所村 石山寺 同郡
 村 錦織寺 野洲郡 淨嚴院 蒲生郡 慈光寺 同郡 石 大通寺 長瀬神社 照寺 坂
 郡 新莊 琵琶湖 本邦第一の大湖 周囲七十四里 湖邊 余吾湖 伊香郡 賤か嶽
 寺村 琵琶湖 本邦第一の大湖 周囲七十四里 湖邊 余吾湖 伊香郡 賤か嶽
 竹生島 琵琶湖 永源寺 安土山 蒲生郡 信長 三上山 野洲郡 世に近
 岐阜縣(名邑) 岐阜郡 厚見 大垣 安八 ○ 南宮神社 國幣中社 不破郡 伊奈波

神社縣社三輪神社大野郡八幡神社須原神社武儀郡大矢田神社
 同郡大白山神社郡上郡惠那神社惠那郡中●妙應寺不破郡横藏
 寺大野郡華嚴寺同郡谷全昌寺大法華寺立政寺西莊村乙津寺同
 郡龍泰寺武儀郡下新長谷寺同郡吉永保寺長瀬村願興寺同郡御
 ●長良川世に喝れり金華山跡養老瀑山中霞間谷池田郡池田
 關原古戰場
 愛知縣(名色)名古屋郡愛知熱田世に宮と犬山郡津島海東○熱
 田神宮知郡熱田津島神社津島眞清田神社中島郡一宮大國靈神
 社同郡國大縣神社丹羽郡二宮●東西本願寺別院建中寺萬
 府宮村

松寺・眞福寺・政秀寺、法華寺、長久寺、總見寺以上名
 正眼寺春日井郡定光寺同郡密藏院同郡野田雲興寺同郡赤瑞泉寺
 山曼陀羅寺飛保村妙興寺同郡甚目寺海東郡蓮華寺同郡須賀村
 明眼院同郡馬●名古屋離宮本丸桶狹間愛知小牧山春日井郡共に
 三重縣(名色)津郡安濃郡山田郡桑名郡松阪郡高四日市郡三重○
 皇太神宮奉る度會郡宇治豐受太神宮奉る同郡山田月讀宮同郡
 又山田に瀧原社同郡野多度神社縣社桑名郡諏訪神社同上三重加良
 須神社一志郡岩宮八幡宮同郡川上村●本統寺、法盛寺共に西
 福寺藥師郡石地蔵院關專修寺龜郡觀音寺同郡白子四天王寺、

觀音寺共に西來寺安濃郡乙部村大然寺全志郡青巖寺神山郡丹生村來
 迎寺、清光寺、常念寺並に本宗寺飯野郡金剛證寺度會郡廣泰寺古村
 ◎内外宮神社、高倉山、岩窟、二見浦、

聯合府縣西の部

奈良縣(名邑)奈良又南郡と云ふ往こほりやま郡山高田郡葛下高田郡五條宇智郡

○春日神社奈良春大和神社山邊郡大神々社城上郡石上神社郡
 布留神社廣瀬郡龍田神社立野郡榎原神宮高市郡吉野神社吉野郡
 吉野山丹生川上神社全郡丹生村(以談山神社十市郡武峯東大
 寺高五丈餘興福寺奈良長谷寺城上郡法隆寺平群郡朝護孫子

寺全郡金峯山寺吉野郡南法華寺高市郡菩提寺橋本郡龍蓋寺岡村
 西大寺下郡藥師寺全郡唐招提寺全郡五全郡金剛山寺矢田村當麻

○生國魂神社官幣大社住吉神社全上廣田神社全上武庫水無瀬

宮全中社島上安倍野神社別格官幣座摩神社大坂天満宮上高津宮
 上四天王寺東成郡天一心寺全和光寺大瑞龍寺全大融寺上
 北源光寺同大念佛寺住吉郡勝尾寺島下郡總持寺全郡瀧安寺
 雙島郡住吉浦住吉箕面瀑上天保山治川口和泉名邑堺大

郡岸和田泉前 ○大鳥神社官幣大社大男神社縣社日根 ●妙國寺界
 南宗寺上松尾寺和泉郡松尾寺村 施福寺尾山 大威徳寺同郡牛 ●茅渟浦
 の 信達森日根 (河内名邑) 牧方 八尾若江 富田林石川 ○枚岡
 神社官幣大社河内 譽田神社縣社古市 四條 暇神社別格官幣
 寺高安郡教 葛井寺 一名剛琳寺丹 石川郡 金剛寺 錦郡 觀心寺
 同郡 道明寺 志紀郡道 ●金剛山石川 天野郡 高安 里高安 禁野交
 兵庫縣(名邑) 神戸 本邦五 八部 尼夕崎河邊 三田 有馬 ○湊川
 神社別格官幣社生田神社八郡生 大國主西神社武庫郡西宮 多田

神社河邊郡多 長田神社八郡郡長田村 ●中山寺山寺村 天上寺
 山眞光寺 八郡郡 ●湯山 有馬郡 須磨 須磨 一の
 谷部 播磨 名邑) 姫路 明石 明石 海神社 明石郡西垂水
 射立兵主神社 廣峯神社 同郡伊和神社 夫栗郡須行名 生石子神
 社 印南郡生 曾根神社 同郡曾根村 ●太山寺 明石郡 鶴林寺 加古郡 十
 輪寺 同郡 高砂 隆願寺 同郡 圓教寺 同郡 清水寺 加東郡上 龍門寺 揖西
 村 華岳寺 赤 舞子 濱 明石 高砂 尾上 古郡 赤穂 赤穂
 岡山縣(名邑) 岡山 備前 御 牛窓 邑久 ○安仁神社 國幣中社 色下 宮
 岡吉備津彦神社 津高郡一宮 靈神社 赤坂郡 熊野神社 兒島郡林

社 宗忠神社 御野郡 西大寺 上道郡 曹源寺 同郡 蓮昌寺 山國清
 寺 同觀音寺 御野郡 金 後樂園 舊岡山 (備中、名邑) 高粱元松山と
 玉島 淺口 笠岡 小田 倉敷 窪屋 ○吉備津神社 賀陽郡 宮内 總社 同郡 八
 社 羽黒神社 玉穴門山神社 川上郡 高山市 瑜珈神社 倉敷の南 ●國分
 寺 窪屋郡 永祥寺 後月郡 寶福寺 賀陽郡 井 (備後、名邑) 福山 深海
 朝津 沼隈 府中 尾道 御鞆 ○沼名前神社 兩津國 吉備津宮 島治郡
 ●妙顯寺 沼隈郡 福禪寺 津 大善寺 御調郡 宗光寺 上鳳源寺 三次郡
 照林坊 所 (備後國 以廣島縣の兼管なれど) 今途次の便より此に掲ぐ
 廣島縣 (名邑) 廣島 沼田 嚴島 佐伯 ○嚴島神社 國幣中社 饒津神

社 安藝郡 明 多家神社 同郡 府中 村 沼田神社 豐田郡 白鳥神社 窪屋郡
 速谷神社 佐伯郡 上 向延八幡神社 高宮郡 大 白神社 廣 安神社 同郡 北
 天誓門別神社 山縣郡 清神社 高田郡 東照宮 廣島尾長村 ●佛通寺 田
 郡 別 明 星院 安藝郡 明 日通寺 同郡 牛 國前寺 同郡 尾 福王寺 高宮郡
 願寺 廣島國 泰寺 所 佛護寺 上
 香川縣 (名邑) 高松 琴平 那珂 丸龜 全 多度津 多度 志度 寒川 ○
 田村神社 國幣中社 香川 事比羅宮 全小社 白鳥宮 大内郡 屋島神社 山田
 元石 清尾 八幡神社 香川 郡 宮 琴彈 八幡宮 豐田郡 瀧宮神社 阿野
 宮 八幡宮 那珂郡 山北 法然寺 香川郡 淨願寺 全 興正寺 所 志度

寺寒川郡屋島寺山田郡白峯寺阿野郡金倉寺那珂郡金丸龜郡玄要寺全郡
 法華寺三野郡下五剣山一ユ八八栗山とテ象頭山又大麻山大川山大川山
鶴足郡中通村小豆島大串御全
山上紅葉多し小豆島大串御全

附記 延暦寺は天台宗なり延暦七年傳教大師 勅を奉
 し開創する所、在昔隆盛を極む元龜二年織田公之を一
 突に焼拂はれ其後豊公之を再建し寛永年間徳川家光改
 造す、山中鑿區名跡學て敷へがたぐ其高峯を四明嶽と
 稱し近江山城の兩國に跨り本寺は近江に属すと雖も
 延暦帝と關係淺からざるを以て特に此に掲ぐ

○百事便覽

●京都早めぐり

我京都の風光が宇内に冠たるは惟に山水明媚の爲のみな
 らむ其間森嚴なる神祠莊麗なる佛刹の到處に點綴せるを
 以てなり其位地は既に本書に列記せりと雖ども世事の煩
 多なる塵務の繁雜なる遠來旅客の一一各地名勝を廻覽す
 る能はざるものあらんことを怕る因て茲に名祠巨刹の最
 莊麗最森嚴なるものを選び僅々數日間を出巻して山明水
 媚の間を徜徉しつ、忽ちにして京都の風光を廻覽し得る

便を計り左記により之が指導者に供せん

(第一日)先早朝に旅宿を出て平安神宮に参拜し第四回勸業博覧會を一覽し南禪寺に詣り此邊の割烹店第一樓鳥居に本、瓢箪などにて晝喰をものしてインクラヰン水利工場を見夫より粟田青蓮院、智恩院、八坂神社、丸山公園を経て東大谷、高臺寺、建仁寺、安井神社並びに清水寺、西大谷に至り更に大佛、豊國神社、妙法院、博物館、三十三間堂等を歴覽し以上は東市内に入り枳殻邸、東本願寺より東寺に詣り此より歩を返し興正寺、西本願寺、本國寺、因幡藥師 佛

光寺、六角堂等を觀終り三條大橋邊の旅宿又は鴨漕水樓に投し一泊すべし(注意)晩食を喫し新京極通を散步し或は鴨東の都舞踏を見も亦一興ならん

(第二日)も同じく拂曉より出かけ本能寺、妙滿寺、草堂、下御靈神社を経て京都博覧會(本年は時)を一覽し皇居並に仙洞御所を拜觀し(但し許可なき者は御門内に入)更に腕車を驅り二條離宮をも拜觀し北野神社に詣り此より轅を東に進め相國寺、上御靈神社を経て下加茂神廟を拜し此にて午餉を喫し相摸尙東に赴き知恩寺、吉田神社、眞如堂、黒谷

を歴て銀閣寺にて一點の芳茗を啜り若王子、永觀堂を過
 き歸寓すべし(注意)明日より遠出のことなれば今夜は早
 く就寝べし尤も腕車は宵より命じをくべし然れども格別
 書間の疲勞を覺へざれば隨處の小演劇、演史、解願譚、
 唱曲等適意の諸興行場に至り又鬪毬、射的、圍碁など一
 場の諸遊技を試も可なり

(第三日)は勉めて東天紅禱を出て東北の勝區を探検すべ
 し尤も行厨を携ふかた便利なれば其用意あるべし先づ車
 に乗る白河の詩仙堂、修學院離宮、赤山神社(飯山縣西寺へ

此處又は雲母坂より)を過ぎ八瀬、大原に至り勝林、極樂、來
 上り天津(下るべし)を経て音無瀧を一見し踵を轉して寂光院に古を
 迎の諸院を経て音無瀧を一見し踵を轉して寂光院に古を
 吊ひ夫より車を歸らしめ徒歩して江文社を歴此處より三
 宅八幡を過ぎ山端(平八てふ小旗亭あり)に出で京に達す
 る路あり靜原嶺を越へ鞍馬寺に至り僧房に一宿を乞も亦
 旅中の佳話ならしむ全寺門前なる鞍馬村に旅舎あれども不充
 分なり但し此外は山中よて茶店すらなし(注意)
 東北部は歴史的觀察を下すものよは趣味多けれども格別の偉觀
 もなれば歸期の切迫せる旅客は割愛して順覽せざるも妨げなし
 (第四日)は北、西の部にして最も名勝に富たれば一層未
 明に僧房を辞し木船神社に詣で夫より南下して上加茂神

廟に謁し更に西進し今宮、大徳寺、建勳神社を過ぎ金閣寺に芳茶を賞し平野神社を拜し晝喰をなし尙西走して等持院、龍安寺、仁和寺(高麗、梅尾の勝を探らんとせば此より分岐す高雄宿を投せばより嵯峨に會す)妙心寺等を順覽し少しく南なれども木島社、太秦廣隆寺に過りて又北上して嵯峨に至り大覺寺、二尊院(愛宕神社は此より五十餘町の阪路なれば之に賽すれば清龍清龍に泊すべし)釋迦堂、天龍寺、鹿王院、車折神社、臨川寺を経て三軒屋に投宿すべし(注意)若し花候に際せば甚雑沓すれば却

て釋迦堂前宿屋ありの方可ならむ

(第五日)は西南部にて路程遠ければ褥食し残月と共に渡月橋を渡り大悲閣は法輪寺を過ぎ梅宮に詣り松尾、月讀雨神社に謁し西芳寺、淨住寺を経て此より檜原へ出で大枝坂を経て丹波に入る東に向ひて桂離宮を拜觀し夫より南に馳せ向神社長岡宮城遺址を経て更に西走し大原野神社に詣り花寺、金藏寺、三銘寺、善峯寺を歴覽し粟生光明寺を訪ひ長岡天満宮に謁し池亭に就て午餉を命じ柳谷寺は此より西一里許更に小倉神社を過り山崎に出で觀音寺天王山は此より上り寶寺山下寶寺、離宮八

幡宮を順覽し若し直ち京坂へ至り夫より橋本津を渡り男山神社へ賽し淀に至り便船に乗り伏見に上り適宜の旅宿に投せべし(注意)男山へ詣でざるものは山崎より瀬

第六日は城南の部を郷導せん同く早起し夙に桃山なる桓武天皇の山陵に拜謁し深草寶塔寺、元政庵を訪ひ夫より藤森神社を過て稻荷神社に詣り東福寺より泉涌寺後

御歴代山陵を伏拜み但拜謁を許されず更に西驅して竹田安樂壽院、不動堂、及び寶相寺上鳥羽城南宮下鳥羽等を順覽し跋を回し御香宮に詣り金城閣に上り行厨を喫し夫より觀月橋を渡り

宇治堤に出で巨椋湖を右に眺めて宇治に達る觀月橋より宇治まで舟の便り好れども甚遅けり此の便同地に平等院、宇治神社、離宮八幡、惠心院、興正寺等あり一々順覽して尙時尅早ければ宇治川を

遡り米漣、鹿飛など泉石の奇を探り橋畔にて投宿すべし萬壽樓、美濃屋等(注意)旅客若し雨山城の勝區を觀んと欲せば宇治より奈良街道を參看すべし又木津より左折し笠置を經て月瀬に至り奈良より出る路あり

第七日は南、東部の勝地を順覽し一先京都に廻らんとす宜しく東明に出で宇治川の清流に睡眼を洗ひ厄介ながら行厨をも携へ向ふ所は三室戸より黄檗山を過ぎ日野法

二百六十七

界寺に詣り夫より醍醐寺、三寶院此所より上醍醐へ凡そ坂路小野隨心院、勸修寺を觀了り此にて午餉を吃し更に坂上將軍、蓮如上人の墳および東西山科別院を過ぎ四宮に出で此より東へ追分を過毘砂門堂、安祥寺に參り御厩野なる天智帝山陵を拜し日岡嶺を西へ踰ゆれば直ちに京都へ達す以上一周日にて概畧京都並に附近各地の名勝を廻覽したれば今日は少し早くとも旅宿に投し連日の疲勞を一醉に慰すべし(注意)旅客の最も歸程に急なる者は記中の符號ある社寺を順覽せよ

●京都博物館什寶受託規則大意

帝國京都博物館へ寄託する社寺什寶の荷造及び運搬費は勿論修繕費も總て該館にて負擔し其通券料は其製造費と賣下手数料とを除き其他は悉皆什寶を寄託したる社寺に分配し且一ケ年通券料の總額一千圓に滿ざるときは其不足を補充せらるべし(奈良博物館も亦同じ)尙精細は本年宮内省達乙第一號に明かなり

●京都時代品展覽會

御苑内博覽協會 陳列場にて三月廿五日より百日間開會す本邦各有名なる博識家、詳論討議して仔細に其時代

を區分せり(延曆藤原足利以下逐次明治に至る)美術工藝家たるものは固より一般の人士も亦宜しく先時代品の典型模範を見以て本邦製作の順序を悟りたる後第四回勸業博覽會に臨み參考せば新理想、新學術を研究するに於て其得る所決して鮮少ならざるべし

●鐵道に就ての注意(官設鐵道なり但私設は之に準ず)

○旅客は發車時刻前少くとも十分まへに停車場に至るべし又出札所の窓を退く際に其切符並に釣錢を改むべし若錯誤ありて後に申出るとも聽入られざるべし

○五十哩以内の切符を所持するもの其表に記載する停車場まで直行するを得、萬一途中の停車場にて下車すれば再び同切符を以て次の列車に乗継ことを得也

○五十哩以上の切符を所持するものは左の停車場に限り何れにても下車し再び乗継ことを得べし

- 大坂、京都、馬場、草津、米原、大垣、岐阜、名古屋、豊橋、濱松、静岡、興津、沼津、御殿場、國府津、大磯、大船、横濱

○切符の通用日限は五十哩以上百哩未満二日、百哩以上

二百哩未滿三日、二百哩以上三百哩未滿四日、三百哩以上五日、但し何れも發行當日を併算す、又五十哩以上の切符を所持する者と雖も前記停車場の外に下車するときは其切符は無効となれば之を鐵道係員に渡べし

○小兒四歳未滿は無賃四歳以上十二歳未滿は半賃金なり但し座位は錢に切上るものとす

○手荷物は旅客の手廻品のみにして上等客は一人に付目方百斤 中等客は全上六十斤 下等客は三十斤までを無賃とす 此外は總て里程に應じ賃金を出すべし 又

手荷物は他の人妨碍にならざるやう腰掛の下に入得小きもの限り客車内に携帯を得べし

○旅客は其手荷物へ宿所氏名及び途先を記し且引換の合符を受取るべし否ざれば錯誤などありとも鐵道廳にて之を取合ざるべし又旅客は手荷物に會て貼たる驛名札等あれば總て取除き間違なきやうすべし

○旅客若し前記無賃外の手荷物あれば其乗車する停車場へ二十分前に持込べし否らざれば同列車に積込むことを断はらるべし(注意) 貨物の發着は時々變

手荷物貨物金表

里	程	貨金五錢未滿旅客列車にて旅行する行商并に呼聲は支拂を要せし商の商品 但一級急車にて運送するもの
二十五哩まで	金五厘	目方 廿五斤迄 五十斤迄 百斤まで
五十哩まで	金七厘五	目方 金拾錢 金貳拾錢 金參拾錢
百哩まで	金壹錢	目方 金廿錢 金參拾錢 金五拾錢
百哩以上五十哩若同	金貳厘五	右に掲ぐる貨金は運送里程五十哩まで目方百斤までのものに限る

● 瀛車並に瀛船賃金の割引

今般紀念祭協賛會より交附したる紀念章又は參佩章を佩用する者に限り各會社より瀛車瀛船の賃金割引票を渡すこと、なれり其使用期限は本年三月廿五日より七月廿五日までとす其割引は即ち左の如し

- 東部 ○日本郵船 ○炭礦鐵道(以上五割) ○大津太湖瀛船
 - 關西鐵道 ○讚岐鐵道(以上三割) ○奈良鐵道 ○關西同盟瀛船 ○山陽鐵道 ○坂界鐵道 ○大阪鐵道 ○參宮鐵道 ○總武鐵道 ○甲武鐵道 ○兩毛鐵道 ○日本鐵道(以上二割)
 - 西部 ○日本郵船(五割) ○大津太湖瀛船 ○讚岐鐵道(以上三割) ○淀川瀛船 ○奈良鐵道 ○大阪鐵道 ○阪界鐵道 ○山陽鐵道 ○參宮鐵道 ○關西鐵道 ○關西同盟瀛船 ○播但鐵道 ○筑豐鐵道 ○九州鐵道(以上二割)
- 官設鐵道は別に乘車票を要せし京都に往復する者に限

り二割引の往復切符を賣渡せり

前記東部に属する者と雖ども参拜を終り西部聯合區域

(伏見、奈良、大阪、堺、神戸、岡山、廣島、琴平)の

見物をなす者には西部に属する割引票を渡さるべし、

西部に属する者の東部聯合區域(大津、彦根、伊勢、岐

阜、名古屋)に於るも亦同じ

○参宮鐵道 關西鐵道線を経て西は草津東は名古屋にて

東海道に聯絡す又同行者二十五人以上の乗客には一割

以上三割半までの割引せり

●京都電氣鐵道

電氣鐵道を布設せるは實に我京都を以て全國の嚆矢とす

而して目下成功の部は尙その半ばに達せざと雖ども今其

大畧を述んに起點は南禪寺前水利事務所の畔にして南は

伏見町油懸通に至り大阪通ひ淀川汽船と聯絡す中心點は

京都東洞院七條下る所にして是より南を棒鼻、勸進橋、

油懸の三區とし又北を五橋小橋、木屋町二條、水利事務

所の三區とす而して博覽會場近傍に達り二線に岐れ参

觀人出入の便に供ふ現今車數二十六輛一輛定員にして廿分

毎に發車し一區間二錢なり途中何處にても隨意に昇降することを得べし淀川瀛船との聯合賃金は七條より大阪まで十錢なり(但し大阪より來るには此限に非ぞ)

●郵便諸稅畧則

- 書狀之部 目方二匁まで貳錢 四匁まで四錢 六匁迄六錢 以上目方二匁を増ごとに二錢宛を増すべし
- はがきの部 一葉に付壹錢 往復はがきは貳錢なり
- 封皮の部 貳錢長形貳錢壹厘 同角形貳錢貳厘 四錢長形四錢貳厘 同角形同上 六錢長形六錢貳厘

○書留の部 郵便物壹箇につき六錢 但し何程の郵便物にても税金の外に納むるものとす

○別配達の部 三府は十錢 郵便局ある地は六錢 同局なき所は里程十八町まで六錢 同三十六町まで十二錢 五十四町まで十八錢 以上の割合にて里程十八町を増ごとに二錢づつを増すべし

○書籍、帳簿、各種印刷物、寫眞、書畫、繪圖、野紙、營業の見本及び雛形農産物種子は目方三十匁まで貳錢 但し卅匁未滿も亦同じ 以上卅匁を増毎に貳錢を増す

●郵便爲替料

爲替金高 爲替料 小爲替は金參圓以内、爲替料金參錢也
 五圓まで 四錢 (注意)
 拾圓まで 六錢 通常爲替金拂渡期限は振出たる日より
 廿圓まで 十錢 百日限り ○小爲替拂渡は六十日限り ○
 卅圓まで 十五錢 右日限を過れば郵便局へ申出べし

●電信料

○和文一音信(片かな十字以内)金十五錢 但し十字以内
 を加ふるごとに金十錢を増すべし
 ○歐文一音信(五語以内、住所氏名共)金廿五錢 但し一
 語を加ふる毎に金五錢を増す

●内國貨幣陸地遞送賃錢畧表

金高	里程	差出地より全上	同上七全上	同上百全上	同上二全上	同上三全上	同上五全上	同上七全上	同上十全上	同上十五全上	同上廿全上	同上廿五全上	同上卅全上	同上卅五全上	同上四全上	同上五全上	同上六全上	同上七全上	同上八全上	同上九全上	同上十全上	同上十五全上	同上廿全上	同上廿五全上	同上卅全上	同上卅五全上	同上四全上	同上五全上	同上六全上	同上七全上	同上八全上	同上九全上	同上十全上			
五圓	迄五	錢六	錢七	錢八	錢九	錢十	錢十一	錢十二	錢十三	錢十四	錢十五	錢十六	錢十七	錢十八	錢十九	錢二十	錢二十一	錢二十二	錢二十三	錢二十四	錢二十五	錢二十六	錢二十七	錢二十八	錢二十九	錢三十	錢三十一	錢三十二	錢三十三	錢三十四	錢三十五	錢三十六	錢三十七	錢三十八	錢三十九	錢四十
十圓	迄六	錢七	錢八	錢九	錢十	錢十一	錢十二	錢十三	錢十四	錢十五	錢十六	錢十七	錢十八	錢十九	錢二十	錢二十一	錢二十二	錢二十三	錢二十四	錢二十五	錢二十六	錢二十七	錢二十八	錢二十九	錢三十	錢三十一	錢三十二	錢三十三	錢三十四	錢三十五	錢三十六	錢三十七	錢三十八	錢三十九	錢四十	
廿圓	迄八	錢九	錢十	錢十一	錢十二	錢十三	錢十四	錢十五	錢十六	錢十七	錢十八	錢十九	錢二十	錢二十一	錢二十二	錢二十三	錢二十四	錢二十五	錢二十六	錢二十七	錢二十八	錢二十九	錢三十	錢三十一	錢三十二	錢三十三	錢三十四	錢三十五	錢三十六	錢三十七	錢三十八	錢三十九	錢四十			
卅圓	迄十	錢十	錢十一	錢十二	錢十三	錢十四	錢十五	錢十六	錢十七	錢十八	錢十九	錢二十	錢二十一	錢二十二	錢二十三	錢二十四	錢二十五	錢二十六	錢二十七	錢二十八	錢二十九	錢三十	錢三十一	錢三十二	錢三十三	錢三十四	錢三十五	錢三十六	錢三十七	錢三十八	錢三十九	錢四十				

●同配達賃錢表

金高	里程	市内壹里在村壹里全上	以內每里以內每里別立
十圓	迄壹	錢三	錢五
廿圓	迄二	錢五	錢十

此表中市内とは郵便局ある地在村とは全同なる地をいふ○又里程は郵便局より受取人の住所までを云ふ

●小包郵便料一覽表

(表の單位は錢位)

里程	二百	二百	二百	二百	二百	二百	二百	二百	二百	二百	二百	二百	二百	二百	二百	二百	二百	二百	二百	二百
二十里まで	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五
四十里まで	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五
六十里まで	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七
八十里まで	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八
百五里まで	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九
百五里まで	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇
二百里まで	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一
二百五十里まで	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三
三百里まで	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五
三百里以外	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇

(注意) 小包郵便に差出す物品は曲尺にて長さ二尺、巾二尺、厚さ二尺までとし重量は一貫五百目限り又小包郵便物品を郵便局なき地へ送達すれば其重量に従ひ別に

六百目迄二錢壹貫目迄四錢壹貫五百目まで六錢の持込料を拂ふものとす

●三條大橋より各地名勝大畧里程

- 東の方栗田青蓮院町六 知恩院町八 阪神社町十三 圓山丁十四 東大谷丁十四 高臺寺丁十五 八阪塔丁十六 清水町廿一 四條鐵橋町六 西大谷町廿一日 餘
- 野藥師中 二里 醍醐三寶院六町 大津二里廿 南禪寺町十三 博覽會場
- 十一 永觀堂町十五 若王子町二十 眞如堂二十 黒谷町二十 鹿ヶ谷二十 銀閣寺三十 吉田神社三十
- 北の方御所二十 京都博覽會十四 護王神社十八 相國寺五町 京都府二十 療病院十七 下御靈町十二 高等中學

校^{三十}下鴨神社^{三十}修學院離宮^二上御饗^{三十}上鴨神社^{一里廿}
 貴船神社^{三里三}比叡山^{三里}大原^{四里}鞍馬^{三里}建勳神社^{一里十}大徳寺^{一里二}今宮神社^{一里廿}西の方^{新京極}六角堂^{十一}二條離宮^{十町}
 北野神社^{一里十}平野神社^{一里十}等持院^{一里二}龍安寺^{一里廿}
 金閣寺^{一里廿}妙心寺^{一里十}御室^{一里廿}嵯峨天龍寺^{二里十}嵐山^{二里十}高雄山^{三里}梅尾^{三里}愛宕山^{四里}月輪^{三里十}二尊院^{二里十}太秦^{一里十}梅宮^{二里}松尾^{二里十}大原野神社^{三里十}長岡^{三里三}粟生光明^{五町}向日町^{三里}山崎寶寺^{四里十}南の方^{建仁寺}八六波羅^{五町}豐國神社^{十五}三十三間堂^{十六}帝國博物館^{同日}吉神社^{二十}佛

光寺^{十八}因幡藥師^{廿三}本國寺^{廿八}東本願寺^{廿四}西本願寺^{廿九}
 七條停車場^{三十}東寺^餘泉涌寺^{一里}東福寺^{一里}稻荷神社^{一里十}
 藤森^{一里三}御香宮^{二里十}宇治橋^{四里}三室戸^{三里}黄檗^{同上}木幡^{三里}
 等院^{四里廿}巨椋池^{二里三}伏見京橋^{二里}城南宮^{二里}男山八幡^{五里廿}

●七條停車場より各地里程腕車賃金表

御所^{三十丁}二條離宮^{廿五丁}下加茂神社^{一里十六丁}上加茂神社^{二里七錢}北野神社^{一里三丁}三條大橋^{廿四丁}四條橋^{廿丁}八阪神社^{廿七丁}知恩院^{三十丁}西大谷^{廿四丁}三十三間堂^{十一丁}東福寺^{十四丁}東本願寺^{五丁}西本願寺^{三錢}東寺^{十三丁}仁和寺^{一里十丁}金閣寺^{一里十丁}

銀閣寺一里廿丁 大徳寺一里十二丁 相國寺一里六丁 博覽會場卅五丁
十五錢 十四錢 十三錢 八錢

●新撰京都花ごよみ●

- 一月 (初寅)鞍馬毘沙門天 (疫神詣十五日より十九日まで)
山八幡宮 (初詣)北野、八阪、清水、東寺等の縁日
- 二月 (初午)伏見稻荷其他の同社 (看梅下旬より)御苑、北野、東山梅林、伏見梅溪、長岡
- 三月 (垂絲櫻下旬より)御苑、祇園、知恩院、高臺寺、西大谷外に尙多し (柳)鴨川、堀川
- 四月 (桃)伏見桃山、淀西美豆 (櫻)御苑、平野、清水地主、醍醐、嵐山、梅宮、松尾、向社、長岡、御室、

圓山其他各地

- 五月 (藤)御苑、安井、東寺、長岡 (芍薬)御苑内博覽會場 (牡丹)祇園萬花園 (躑躅花)長岡、山端
- 六月 (燕子花)東寺、梅宮、長岡 (新緑)上下加茂嵐山、黄檗
- 七月 (納涼)四條磧、靜屋川、糺杜 (避暑)鞍馬、貴船、岩屋山、高尾、清瀧、宇治川 (看瀑)駒ヶ瀑、若王子、大原音無瀧、月輪、鳴蜩瀑、菩提瀑、洛西大原應笹瀨
- 八月 (蓮)御苑、二條濠、西大谷、巨椋湖、三栖、山崎 (菖)宇治
- 九月 (觀月)靜屋川、鴨漕水樓、伏見觀月橋、嵯峨

- 渡月橋、宇治橋 (萩)高臺寺、平野、豐國社
- ◎十月 (菊)圓山平野舍其外 (雁來紅)祇園萬花園
- ◎十一月 (紅葉)通天橋、清水、永觀堂、若王子、真如堂、高尾、檜尾、梅尾、嵐山、長岡
- ◎十二月 (觀雪)圓山、鴨西旗亭、嵐山、伏見金城閣、

●銀行

- 第一國立銀行支店上京區烏丸通 日本銀行出張所 全區東洞院 三條小路 上ル
- 井銀行支店下京區新町 通六丁目 第百卅國立銀行支店上京區柳馬場 通三條上ル 第百
- 十一國立銀行下京區三條通 東洞院西入ル 第百十三國立銀行全區四條通烏丸 西入函谷鉾町 第

四十九國立銀行全區三條通柳馬場 西入榎屋町 貿易銀行全區寺町 通四條下 京都商工銀

行全區東洞院 通六角下ル 京都銀行全區松原通 烏丸東入ル 西陣銀行上京區元誓願寺 通大宮西入ル

●會社

- 第一絹糸紡績會社上京區東竹屋町一番戶 京都紡績會社全區堀川通 竹屋町上ル 日本撚糸會社上京區小川通 上立賣下ル 西陣撚糸再製會社全區堀川頭寺ノ内上ル四丁目 京都織物會社全區川端通 御幸橋東詰 京都電燈會社下京區河原町 通贈樂師下ル 關西貿易會社全區三條通 東入 京都倉庫會社全區東區 小路町 京都電氣鐵道會社全區木屋町 通四條上ル 疏水倉庫會社上京區 岡崎町 京都時計製造會社全區富小路 通二條上 京都製絲會社全區吉田町 合資商報會社全區三條通 東洞院東入 西陣紋織會社全區智恵光院 通寺ノ内下ル 內國通運

會社支店 下京區四條通室町東入 丸阪會社 全區全通柳馬場東入 京都生命保險會社 上京區
町通夷 明治生命保險會社支店 全區丸川下 日本生命保險會社支店 全區丸通三條上
下京區丸通四條上 真宗信徒生命保險會社 全區油小路御前通上 京都陶器會社 紀伊郡深草村

● 歌

上京區 岡崎町 宇田 淵 全區堺町押小路南 尾崎 宍夫 全區岡崎町 則武 正副
全區出水西洞院西 中西 石陰 下京區大佛池田町 近藤 芳介 赤松 祐以
下京區烏丸三條南 田中 敬忠 猪熊 夏樹 乙訓郡神足村 岡本 宣忠

● 國學

● 詩文

上京區御幸町竹屋町南 如意 全區富小路押小路南 小野 湖山 全區堺町御池南 林 雙橋
全區柳馬場御池南 江馬 天江 下京區烏丸佛光寺南 中村 確堂

● 儒

上京區堀川 伊藤 重光 下京區油小路五條北 山本 章夫

● 書

住所上 谷 如意 下京區木屋町松原北 遠山 廬山 上京區御幸町竹屋町北 小林 卓齋

● 畫

上京區丸太町登座東 土佐 光武 全區寺町荒神口北 田能村 直入 全區室町竹屋町北 望月 玉泉

全區河原町 柳原文翠 全區鉄屋町御池 重 春塘 全區中立賣新町東 原 在泉

富岡鉄齋 全區鉄屋町御池南 淺井柳塘 全區車屋町御池南 山田文厚

下京區丸 岸 竹堂 全區東洞院錦小路北 谷口露山 全區寺町松原北 今尾景年

全區堺町 萬壽寺南 前川文嶺 油小路佛光寺南(佛齋) 實英 下河原月見町(油齋) 田村宗立

● 篆刻及彫刻

上京區柳馬 藤田芥津 全區新町二旭條南(彫) 旭 玉山 全區寺町姉小路北 田中宗祐

● 醫

上京區御 池為丸西 半井 澄 全區富小路二條南 安藤精軒 全區堺町三條北 猪子止茂之助

全區南 禪寺町 新宮涼亭 全區富小路二條南 山田文友 新町通妹小路北 川本恂藏

● 茶

上京區小川 寺の内北 千 宗室 全所 千 宗左 下京區西洞院御前通南 藪内紹智

● 插花

下京區六 角烏丸東 池之坊專正

● 俳諧

上京區河原 町夷川櫻尾 稻 處 下京區双林寺内芭蕉堂 楓 城

● 旅館

上京區河原 町二條下 京都ホテル 全區鉄屋町姉小路上 俵 屋 全區鉄屋町押小路上 澤 文

全區鉄屋町 姉小路上 栢 屋 全區御幸町三條上 松 吉 全區木屋町三條上 大嘉樓

全區木屋 池 庄 全所 玉川樓 全所 柏 亭
 町三條上
 全所 大津屋 全所 金波樓 全區新 清輝樓
 下京區丸 也阿彌 全區河原 共樂館 全區三條通 日光屋
 山公園 町四條上
 全區三條通 萬 屋 全所 吉岡屋 全所 大津屋
 河原町東
 全所 山城屋 全所 日貫屋 全區三條 扇 屋
 大橋東
 ●料理店
 上京區南 第一樓 全所 瓢 亭 全所 鳥居本
 禪寺前
 全區木屋 生 龜 全區鉄屋 八 新 全區繪藥 竹村屋
 町三條上 町御池北
 下京區祇園 中村樓 全上 鳥居本 全上 梅 尾
 町鳥居前

全區丸山 左阿彌 全所 平野屋
 公園内

●京都の産物

西陣織物、刺繡、綵緞、染物、友仙染、鹿子染、絲條類、
 晒布、粟田焼陶器、清水焼陶器、七寶焼、銅器錫細工、
 針、其他金屬器、金銀箔、金銀絲押箔、漆器、團扇、扇
 子、簾、花簪、小町紅、白粉、京人形、伏見人形、毛植
 細工其他玩弄品、樂器、茶、生絲、菓子、千枚漬、鷺不
 知、菜蔬類、筍、松茸、鮎、鯉、年魚、鰻、鮭等なり

●京土産

前記産物の中みやげ物に適當なるは西陣織物、染物の友染鹿の子等半襟、陶器、銅七寶、漆器、茶、菓子、蒸干紅、白粉、扇子、針、花簪等にして驚不知、千枚漬も亦妙なり

○第四回内國勸業博覽會

半日に見るとも一日に見るとも二日三日五日七日を費して仔細に批評するとも將た僅々一時間に雲烟過眼的に見るとも蓋は參觀者の自由なり又入るに正門よりする以上は左よりするも右よりするも亦各自の自在なれと大体

の模様に通せば便宜あしかるべし到底短時間では見盡されぬ博覽場、彷彿て時を費すは蛇蜂とらそ、の白痴の沙汰なり若し歸を急ぎ給はゞ工業なり農林なり美術なり此案内に據りて意の向ふ館に行きたまへかし一は郷里に歸りて彼や此やと目も眩み膽も潰る、ほどの多數出品を掻摘んでする事のできる土産話の補助ともなり一は後日憶起の材料にもと左に概畧を案内せん
先づ正面通路を入り左右及び東西兩側は工業館(四棟に)千二百坪にして織物、陶器、漆器其他器具類を陳列し出品

の多き此館を第一とし其數十万八千三百九點あり左右とも二列とし左の内列は京都、島根、福井、石川、富山、新潟、北海道、政府、千葉、外列は兵庫、岡山、廣島、山口、和歌山、徳島、香川、愛媛、福岡、高知、大分、佐賀、長崎、熊本、鹿兒島、宮崎、沖繩、茨城、埼玉、右の内列は京都、滋賀、岐阜、長野、群馬、栃木、福島、宮城、巖手、青森、山形、秋田、東京、外列は大阪、奈良、三重、愛知、静岡、山梨、神奈川、東京にして其中出品点の多き三府に次げるを石川愛知等なりとす政府の

出品は言はでものと同所の中庭西南の隅に京都園藝協會の盆栽陳列所並に花壇あり休憩所を設け薄茶煎茶などの望に應じ同じ中庭北の大通路外に京都茶業組合よりの喫茶店あり薄茶煎茶等こ、も希望の任意なり同館を出て西側の南に農林館一棟千四百四十坪出品東側の南に器械館一棟九百七十坪あり前者は農業、森林及び園藝物を陳列する所にして穀物、蔬菜、煙草、木材、綿、生絲、繭、茶及び酒、醬油等此中に在り大阪京都北海道徳島兵庫等最多數なり同館の北と西とに沿ふて盆栽、苗木等あり後者は一切の

器械を陳列する所にして大なるは蒸氣力を以て運轉するものより小なるは手鑿に用ゆるものまで備らざるはなし
 器械館を東に出れば水産館一棟五百四十坪出品數一萬二千二百二十七點は海川沼池の魚貝及び藻苔類並に採収器等を排列す其南に水族室十坪あり海鮮川鱗の潑刺たる其數を知らせ東に奈良縣の金魚池、南即ち工業館の東側に飲食店休憩所等あり茶店氷店の輕便より花妓を聘ふこと不能けれ通常料理亭もあれば西洋料理屋もあり酒が厭ならば東京の汁粉神戸の果物京都の菓子蕎麥其他すし屋なども數多し更に東の方動

物館一棟六に到れば牛馬豚鶏及びいろくの小鳥其他蓄類の啼き叫ぶ聲耳聾するばかりなり其西に岡山縣出品の醬油樽陳列所あり又踵を回して水産館の北 龍の噴水に眼を驚かし更に進んで美術館一棟四に上れば身は忽ち別天地に生れたる心地す言ふまでもなく此處は書畫彫刻織文寫真木石銅版等美術品を網羅したる所にして特に注意を要すべきものは多く此中に在り其前に東西相對ひて奏樂所あり本會の三大式日四月一日の開場式、七月十二日の及び毎日曜日に奏樂の催あり聽者をして自から羽化登仙の

思おもひらしむ美術館びやうくわんの東南とうなんに在るを式場しきやう三百六ひゃくろくにとす應天門おうてんもんに對する裏門うらもん内の西側にしがはに北海道及び福岡縣三池みやいけより出陳しゅつちんしたる石炭塊せきたんくわい大きい物の一なり東側ひがしがはに日本赤十字社にほんせきじゆしやより出陳せる戰時病院せんじびやういんの模形もけいは時節柄人じせつがらの目を惹く喝采物かくさいものの一なり又工業館こうぎやうくわんの西に在る建物たてものを審査所事務所其他各府縣委員出品人總代醫員警官等けんゐんしゅつひんにんそうだいいんけいけんじやうの詰所つしよとす是れ場内の位置ゐち順序じゆんじゆの大畧おほまじなり別に面倒めんどうと云ふにはあらざれども參觀さんくわんするには自みづから參觀するの心得こころえを知らずでは叶かなはず、いでや左ひだりに其規則そのきそくをものせむ

- 一本會ほんかいは明治廿八年四月一日開ひらき七月卅一日閉とづ
- 一動物どうぶつの出陳しゅつちんは馬うまを五月一日より同十五日まで牛羊豚ぎやうじゆんた
- 一禽いんを五月廿六日より六月九日までとす
- 一蔬菜菓物そさいくわくぶつの生物せいぶつ及盆栽類ぼんざいるいは其季節きせつに従したがひ出陳しゅつちんす
- 一會場くわいじやうの入口いりぐちは午前八時に開ひらき午後五時に閉とづ出口でぐちは午前八時に開ひらき午後七時に閉とづ又各館かくくわんは午前八時に開ひらき午後六時に閉とづ但たゞ都合ごごに依り之を伸縮しんしゆくし又は來觀人らいくわんにんを差止さしどむることあるべし
- 一來觀人らいくわんにんは壹名毎いちごどもに必かならず壹枚いちまいの入場券にやうじやうけんを携たづふべし但たゞ五ご年以下ごねん以下の者は入場券にやうじやうけんを要いせず

一 入場券は左の三種とし門外に於て賣渡すべし

日曜日紅色 壹枚金拾錢 土曜日青色 同三錢 平日青色 同五錢

一 入場券は入場の際守衛に渡すべし瘋癲又は醉狂者と

認むる時は入場を禁じ又は退場せしむべし

一 諸荷物並に酒類等を携帯し又は畜類を牽て入場すべ

からせ但し杖傘其他手提カバン(長幅凡一尺以上のもの)の類は此限にありず

一 美術館は杖傘を携帯し又は下駄草履草鞋等土間を踏

みたる儘にて入館を許さ但し貸草履下足番及び杖傘等の預り所は美術館の側在り

一 各館内は勿論特に掲示する場所にありて烟草を吸ふ

べからせ

一 館内の物品には手を觸る可らせ又場内園中の埒内に

入り又は草木を損害すべからせ

一 陳列品及び飾箱其他の物品を損傷するとまは相當代

價を償はしむべし

一 出品人の承諾を得事務局の許可を得るにあらざれば

陳列品を寫真し又は模寫するとを許さ但し會場内の景狀を寫真し

又は模寫せんとする者の事務局の許可を受くべし

一 在場中本會に所用あるものは一重櫻の章標を佩た

るもの并に本會の徽章ある制服を着けたる守衛に問ふべし

一 構内に於て發病せる者は工業館の西側醫員の詰所に申出べし

一 構内に於て携帶品を拘取られ遺失し若くは拾取たるときは速に巡行の警察官又は構内其詰所に申出べし

又出品の中求めたきものあらば左の手續に據るべし

陳列品を手に取りて見たき時は看守人に頼み其許を得べし○買ひ取るにも看守人に告げて代價の半額を手附

金とし賣買約束の證書を貰ひ置べし○賣買の約束をな

したる物品は閉會後凡十五日以内に受取方の沙汰あるに付約束証書を持参し夫と引替に受取べし○賣約品若

し天災火災盗難等にて破損又は紛失したる時は其趣を報知せらるべきに付證書を持参して手附金を受取るべ

し若し閉會後十五日を経過するも受取に出されば手附金は返戻せむ又何等の申立をなすとも一切受理られざ

るべし

扱て之にて場内の御心得なども申したれば去て場外を案

内せん。

正面前庭の人物噴水は三條蹴上より引水せり實に本會場
 中の一大壯觀にして先づ來觀者の膽を拉ぎ眼を奪ふ其前
 東西に各府縣の賣店あり賣品は多くは場内に陳列せるも
 のと同じけれと自然土産物などを求めらる、枝折にもと
 今其特産品若くは著名品とも云ふべきもの二三点づゝを
 示さん

北海道、土人細工物、小豆粉酒餡、大根砂糖○東京、村田張煙簀、淺草海苔、
 下駄、浴衣地○京都、織物、染物、袋物、京人形、菓子○大阪、岩おこし、玩弄
 品、味噌、でんぷ○兵庫、酒、瓦煎餅、鯛煎餅、由多加織○岡山、陶器、吉備團

子○廣島、宮島細工、干鰯○山口、岩國縮、萩焼陶器○奈良、木綿、根來塗漆
 器○滋賀、縮緬、手巾、姥が餅○岐阜、石細工物、提灯○愛知、有松絞、七賢
 焼、陶器、酒○神奈川、箱根細工、紙製人形○群馬、桐生足利織物○山梨、水
 晶細工、葡萄鐘詰、全蝋○石川、九谷陶器○島根、瑠璃、水晶細工、鐘詰類○
 山形、織物類、粕漬類、薄荷○青森、織物、片栗粉、菓物○福井、羽二重、みぞ
 焼れ、菓子○茨木、木綿織○香川、ホタ織○徳島、白粉、花籠、刺製鳥類○愛
 媛、伊豫耕、漆器○福岡、久留米織、全縞○高知、堅節、紙、珊瑚珠○九州、七
 縣聯合(鎮西館)中津耕、熊本煙草、全紅茶、長崎煙草、全鐘詰類、薩摩耕、全
 煙草、全竹器、宮崎煙草、全うに、博多帯、全人形、小倉織、高取焼、佐賀織物
 陶磁器等

會場の南西を繞るは即ち疏水にして樓影水光相映射して
 大に輪奐の美を添ふるもの、如し夜間に至れば數十の電

燈惜氣なく四邊を照し餘明を東山に向きつける其光景得も言はれぞ西側の對岸に二大パノラマあり共に征清事件にかゝる其東にある妙傳寺關西身延内に京都府事務所あり其他各府縣の事務所は多く此傍近の寺院内にあり 京都と云へば特に京都の出品に就て讀者に紹介すべき事あり道に京都は美術の淵藪なり本場なり如何なる名品佳什があるかを知らんどの希望は誰彼同じかるべし今一たび内部に立戻りて説明さん、いざたまへ

第一高價のものを言へば池田清助氏の二枚折屏風一雙にして價一万五千圓こは氏が六星霜を費して製作たるものなれと落撰と聞く氣の毒の限なり、漆器の部にては三上幸三郎氏の廣蓋、西村彦兵衛氏の花月臺、戸島彌兵衛氏の菓子器、香盆、山本利兵衛氏の袱箱三百五十圓 林新助氏の糊物千貳百圓 差物には有名なる駒澤利齋氏の文庫八十圓 銅器の部にては紹美榮祐氏の硯蓋、釣棚等、龍文堂の花瓶、並河清之氏の七寶燒壺千五百圓 陶器にては清風與平氏の日本式花瓶外六品、錦光山氏の花瓶三個、伊東陶山氏の蝶模様花瓶、繡物には川島甚平氏の觀音圓位等共に非凡の作にして

眸を凝すだけの價値は確にあり其他にも傑作優製多けれ
 とも只今こゝに記す能はざるのみ將た繪畫に至ては數限
 りもなき出品殆ど一として凡筆なしといふも過言に非ぞ
 終に大体に就て一言申上ぐる事あり抑も今回の博覽會は
 第三回に比して會場の建築も一層其宜しきを得たりとの
 評あり出品の多數なるは時勢の進歩上自から然らしむる
 所なれば去りとして斯くまで多數なるは意外なりき今聞く
 所によれば會場總坪は五万二百餘坪にして館内容積を
 品人員に割附すれば平均一人一尺三寸強なるに實際要す

る所は二尺六寸強なり即ち倍數の不足を生ぜど、扱ても
 盛なることかな第四回内國勸業博覽會萬歲
 ○附屬水族館 兵庫縣下和田岬和樂園内に設けられ管内
 博物學者水産家の參考のみならず一般人士の新智識を得
 るもの多かるべし白砂翠松風光明潤散步に可なり

○平安奠都紀念祭

不二峯の秀つる處、琵琶湖の清き邊、隆然として其れ高
 く鬱乎として其れ深く、國光は浴く四夷八荒に輝く大日

本帝國、二千載後の民は二千載前忠良なる臣民の子孫、
 百世の下仁慈英明なる 聖主は百世前より連綿たる 天
 日嗣の系に在ます、憲日愛風の中に斯良國民は斯好風
 光と共に 帝室の萬歳を説明し帝國の萬歳を確證せり、
 度みて往時を回想するに 皇祖神武天皇の鴻業は萬古赫
 赫として天日の如し降て第五十代 桓武天皇英邁の雄資
 を懷抱し經畧の大業を恢弘し 帝都の屢々遷易すべから
 ざるを察し初めて平安城を奠め文物制度を大成し給ふ爾
 來星霜を經る一千一百年、時に盛衰の變なきにあらざる

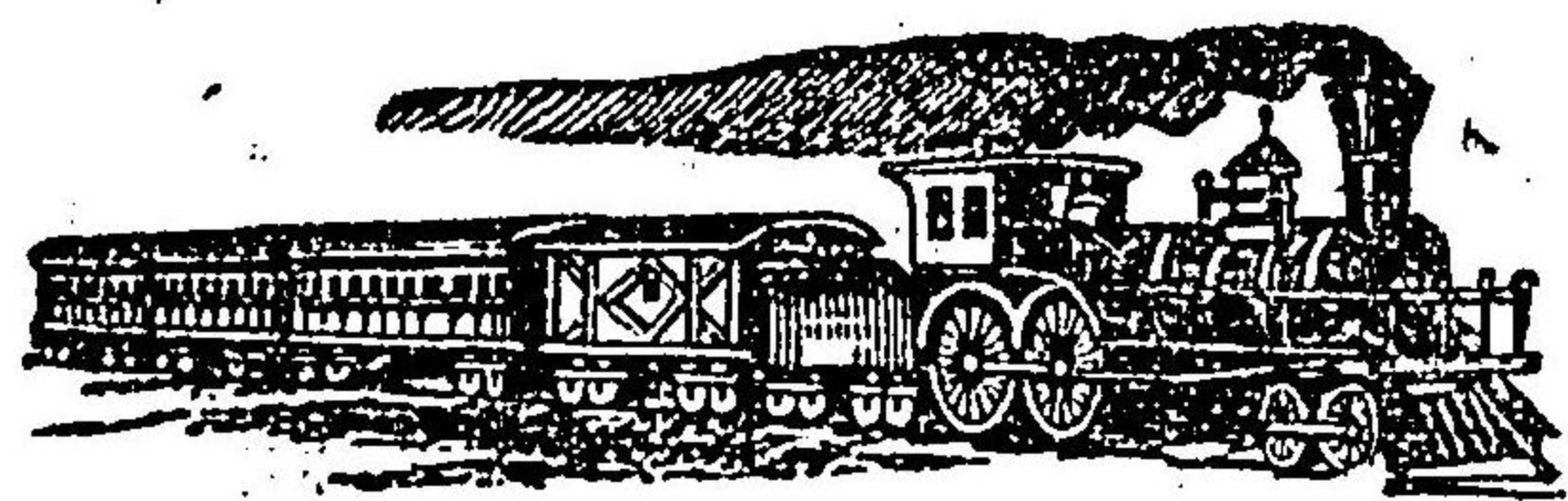
も今や舊帝京として隆昌年に加ふ此鴻圖と共に東夷を征
 定し給ひし雄畧は千秋の下萬民の瞻仰する所、畏けれど
 中興の明主と稱へ奉るもの抑も以あるなり今茲京都及び
 全國の有志者相謀りて奠都紀念祭を行ふ都下に住める者
 は固より西は大隅の隅より東は陸奥の奥に至るまで子來
 の民、謳歌の聲南より集ひ北より群り天に歡び地に喜ぶ
 の狀譬んにもなし普天の下、率土の濱、世界は廣く萬
 國は多しと雖も此の如きの盛典何くにか在る米の獨立祭
 普の凱旋祭を凌駕して遙に坤輿の東天に一大異彩を放て

るもの、如し殊に尅下外には征清の軍連戰連勝の快事あり内には博覽會開設の慶事あり紀念祭は優に此間に擧げられ破天荒、東西未聞、古今獨歩の一大盛事として内外人の讚美するも亦當然なり著者此 聖世に生れ過古の涯なき 皇恩を追慕し現在窮りなき 德澤を奉頌し未來盡きざる希望を記するを得るもの何の幸か之に如かと思ふに歡喜の情は當世の人に溢る、のみならず後世の子々孫孫をして坐るに當年を想遺するに當り胸底忽知として天震ひ地撼くの盛况を描出せしめん嗚呼熾なる哉、偉なる

哉、紀念祭は行はれたり鳴水流れて樂を奏するが如く東山登へて舞を演ぞるに似たるの間平安神宮は巍々として大空に抜んで花は笑ひ鳥は歌ふの中に榮ゆる御代の民草は勇みいさみて簇る雲霞の黓黓に見ゆるもめでたし

祭典の委細景況は次版を俟て録す所あるべし

○紀念祭協賛會寄附金額 下賜金二万五千圓(内五千圓平安神宮) 都(十萬四千五百八十二圓)東京(五万二千四百八十二圓)大阪(一万八千六百五十九圓)兵庫(一万一千二百八十圓)岡山(九千五百九十五圓)神奈川(九千二百圓)以下畧)合計二十五万七千八百三十五圓(其後申込今に至て絶へせ)



廣告

東山と鴨川、京都は鶯花の好時節となりぬ、博覽會と紀念祭、京都は空前の繁華場となりぬ、征清軍の連勝によりて日本の光を世界に輝したると同じく京都の山水は其明媚の色を増しぬ近來頼に作詩の新材料を加へ墨痕の淋漓たるを覺ふるも亦之が爲ならんか敢て大方風雅諸士の清瀾に應じて筆を揮はむ(但し紹介を要せず潤筆料御隨意)

京都市下京區
木屋町松原上ル

同

同市同區新京極三條
下ル櫻之町十二番戶
同市上京區兩替町御
池下ル十二番戶寄留

遠山 遠山 遠山
風航 山山 山山
千秋 笙母 巖山
廬山 椽山 巖山

衆議院議員第四回野口勝一先生執筆
 内閣勸業博覽會評議員
 五明 溪 佐野誠之先生執筆


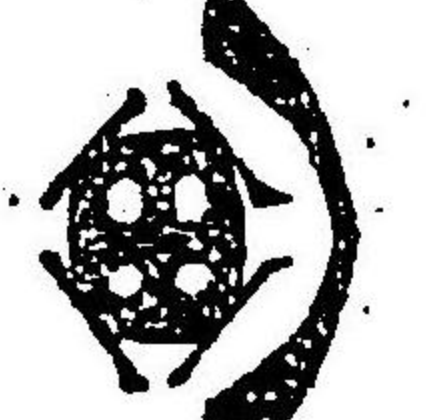


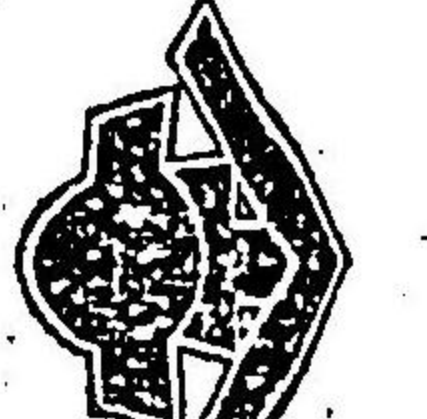

●博覽會誌

第壹回内閣勸業博覽會以來大小ノ博覽會共進會年々各所
 ニ起リ本邦生産ニ益スルコト頗ル大也蓋シ生産ハ國家ノ
 實力ニシテ平時ニ在リテハ國光ヲ揚クルノ資ト爲リ戰事
 ニ方リテハ國威ヲ宣フルノ源ト爲ルヘシ今ヤ王師遠征海
 ナ領シテハ國威ヲ宣フルノ源ト爲ルヘシ今ヤ王師遠征海
 皆國富ノ地ヲ畧シ希世ノ功ヲ建テ敢テ軍須ニ缺ク所ナキハ
 ハ當ニ時ニ方リ殖産興業ノ事ニ吾人トシテ大ニ感スル所
 覽會誌ヲ發行シ第四回開會ニ先マテ其要務ヲ記述シ又
 開會ノ日ニ及ヒ場内ノ列品ニ對シテハ輕シク筆ヲ下サズ
 其來歴用途等ヲ詳カニシテ思慮ナク可ク眞相ヲ描出ス
 會事ニ關スル諸般ハ精細ナルヲ觀察チテ遂ケテ眞相ヲ描出ス
 トキハ之ヲ論斷シテ省察ヲ請フ所アルベシ要スルニ是

關東最上醬油廣告

- 子 山下平兵衛
- 雀 淺木利平
- 亞 淺木房五郎
- 心 淺木七左衛門
- 廉 淺木佐平治
- 香 淺木七郎右衛門

御モ下總地方ニ醬油ヲ製出セシハ今ナ距ル數百年前ニシテ年々星霜ヲ經
 從ヒ醸造高モ増加シ今ヤ數十萬石以上ニ及ヒ隨テ聲價四方ニ傳ハリ醬油
 獨チ以テ全國第一最上醬油ノ位地ト爲スニ至ルハ愛顧諸君ノ信用トシ

岩崎青	
田中玄	
岩崎重次	
高梨孝右衛門	
高梨平左衛門	
淺木七郎右衛門 七藏製	

關東最上醬油廣告



茂木七郎右衛門



茂木佐平治



茂木七左衛門



茂木房五郎



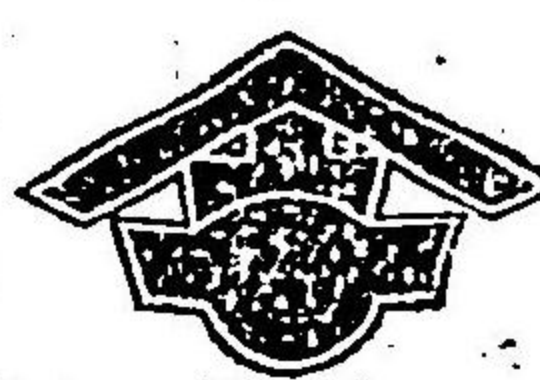
茂木利平



山下半兵衛



乙藏製
茂木七郎右衛門



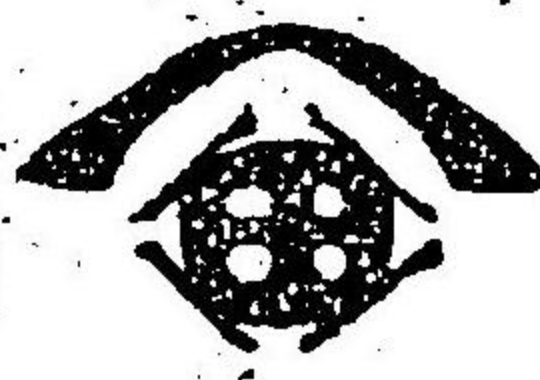
高梨平左衛門



高梨孝右衛門



岩崎重次郎

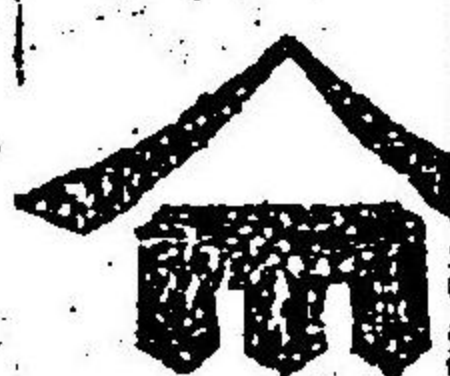


田中玄蕃



岩崎清七

抑モ下總地方ニ醬油ヲ製出セシハ今ヲ距ル數百年前ニシテ年々星霜ヲ得ルニ
從ヒ醸造高モ増加シ今ヤ數十萬石以上ニ及ヒ隨テ聲價四方ニ傳ハリ醬油ハ下
總ヲ以テ全國第一最上醬油ノ位地ト爲スニ至レルハ愛顧諸君ノ信用ト又造家
多年辛苦經驗ノ好果トニヨリ候儀ト奉感謝候既ニ第三博覽會ニテモ有効賞牌



茂木七左衛門



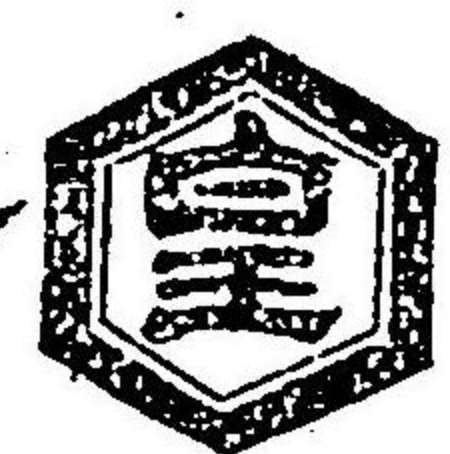
茂木房五郎



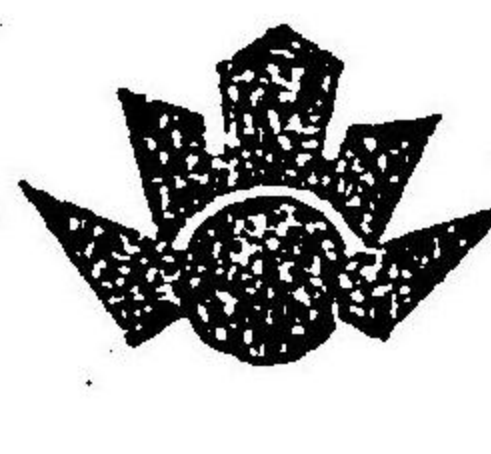
茂木利平



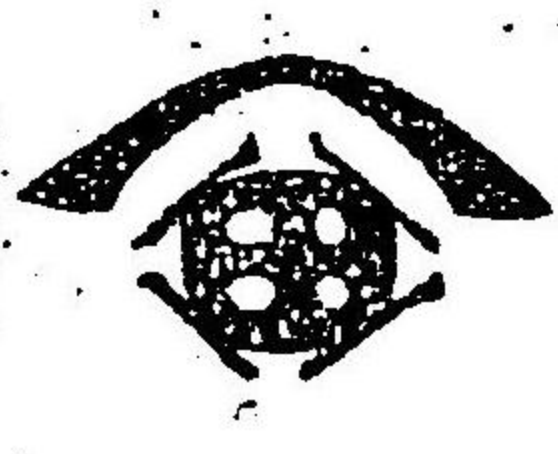
山下半兵衛



高梨孝右衛門



岩崎重次郎



田中玄蕃



岩崎清七

抑モ下總地方ニ醬油ヲ製出セシハ今テ踰ル數百年前ニシテ年々星霜ヲ得ルコ
 從ヒ醸造高モ増加シ今ヤ數十方石以上ニ及ヒ隨テ聲價四方ニ傳ハリ醬油ハ下
 總ヲ以テ全國第一最上醬油ノ位地ト爲スニ至レルハ愛顧諸君ノ信用ト又造家
 多年辛苦經驗ノ好果トニヨリ候儀ト奉感謝候既ニ第三博覽會ニテモ有効賞牌
 ナ賜ハリ其効ヲ賞セラル依テ猶一層醸造法精選之上特別安價ニテ愛顧諸君ノ
 高恩ニ報セント欲ス莫クハ御高愛ヲタレ御愛用アラソイテ敬白

附言

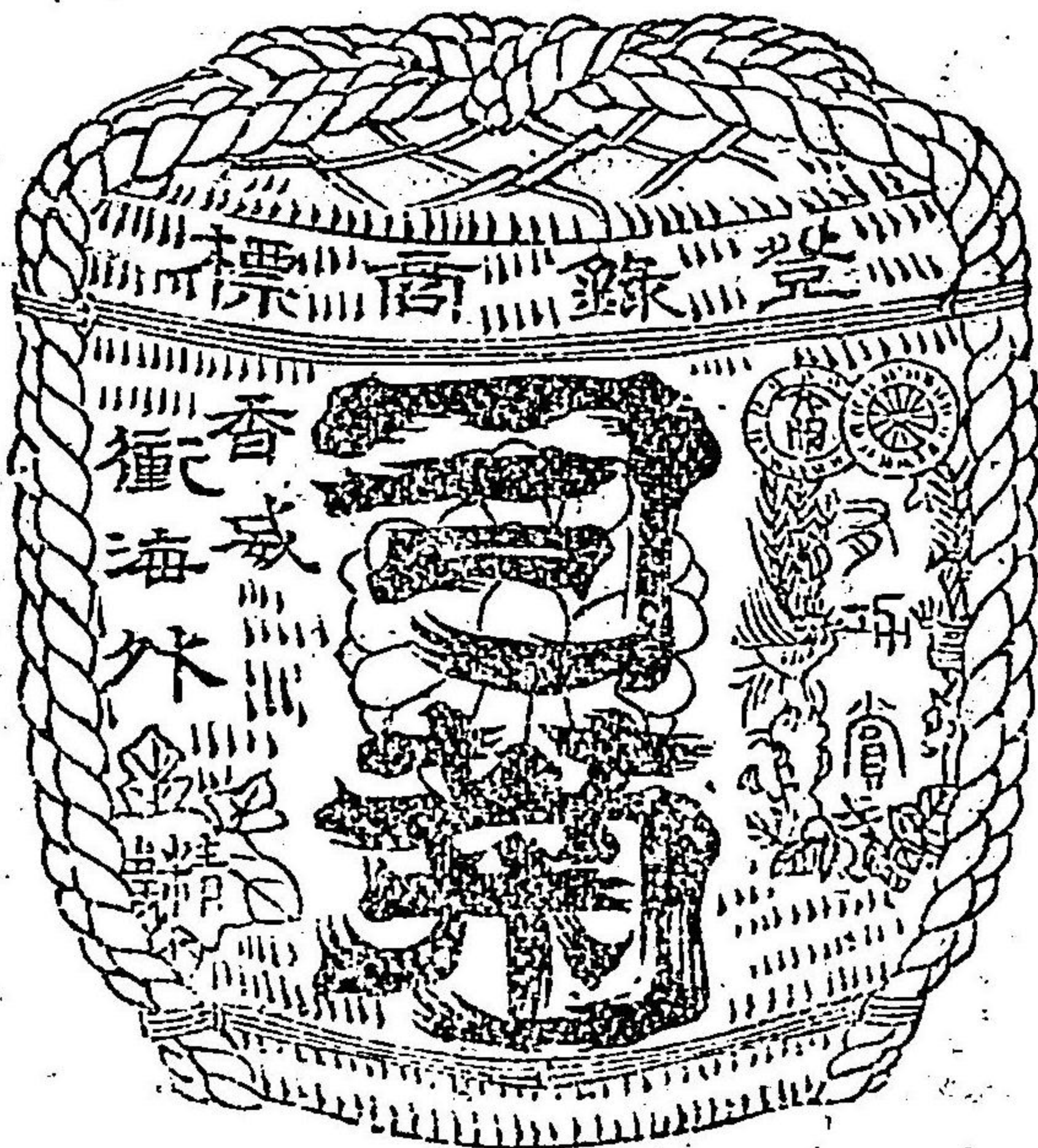
右印醬油ノ外何印ニ依テズ弊店ニ於テ販賣仕候間舊ニ倍シ御注文

アラソイテ希望致候也

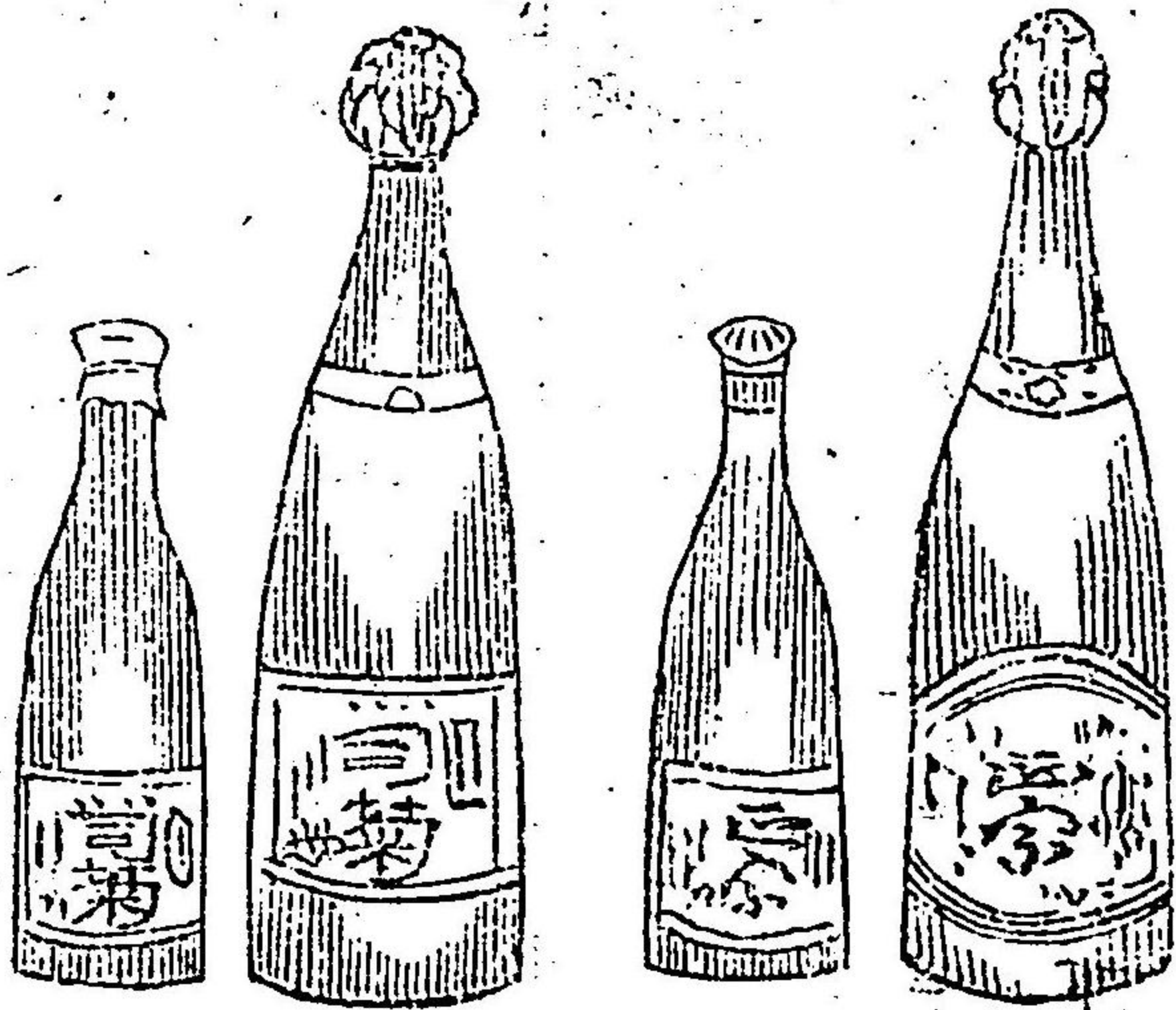
大阪市西區京町堀上通二丁目

關西一手販賣所
并諸國醬油問屋

彌谷佐兵衛



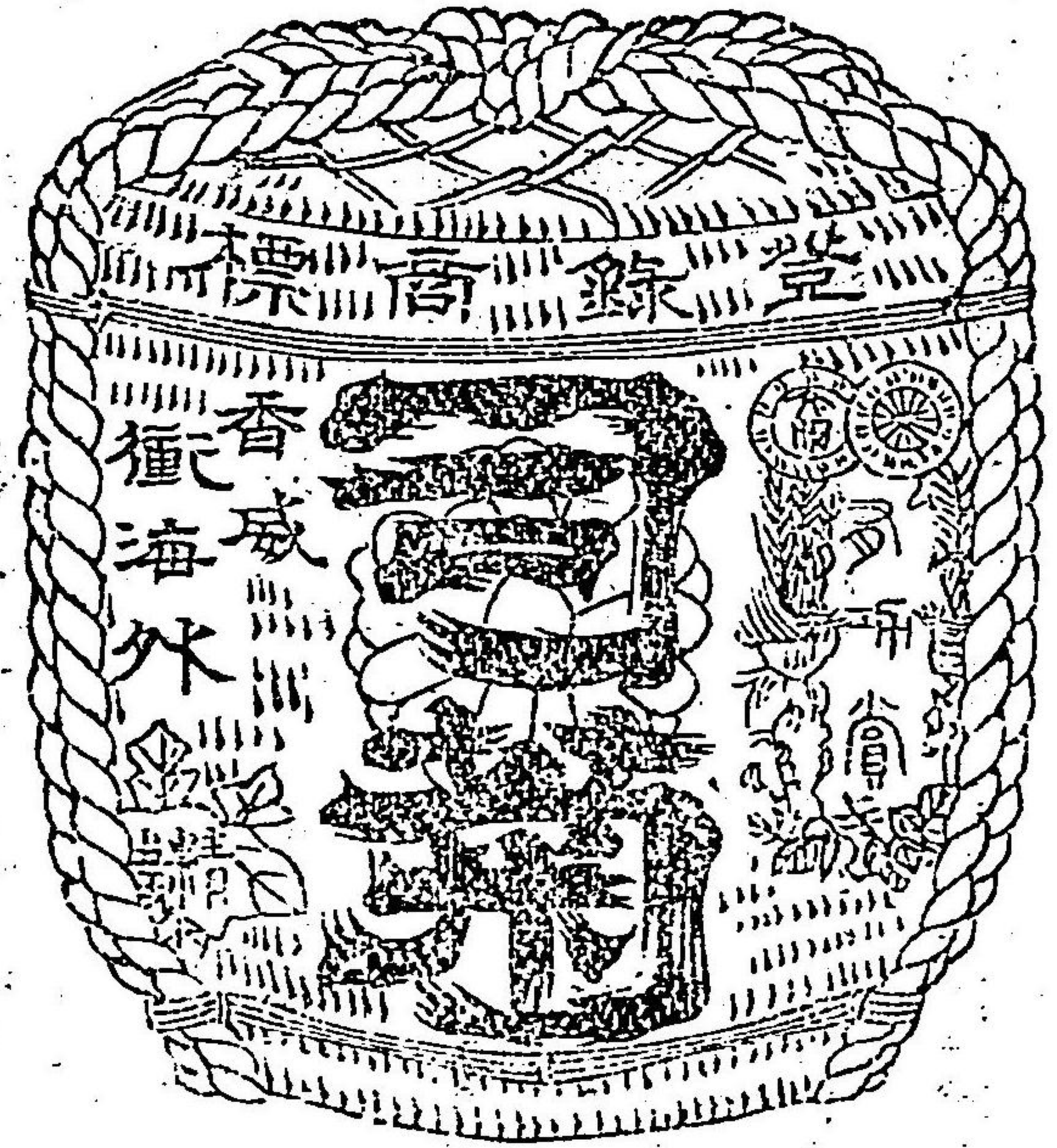
弊家醸造しら菊、司菊、正宗の諸銘酒
 は夙に江湖諸彦の御賞賛を辱くし家業
 愈隆盛を極め候は全く各位恩顧の厚き
 に頼こと、深く奉感謝候就ては今般御
 贈品及び旅中御携帯に便利なるため高
 尚なる瓶詰をも併せて販賣仕候へば販
 賣升賣とも何卒倍舊御需用あらんこと
 を奉冀候也



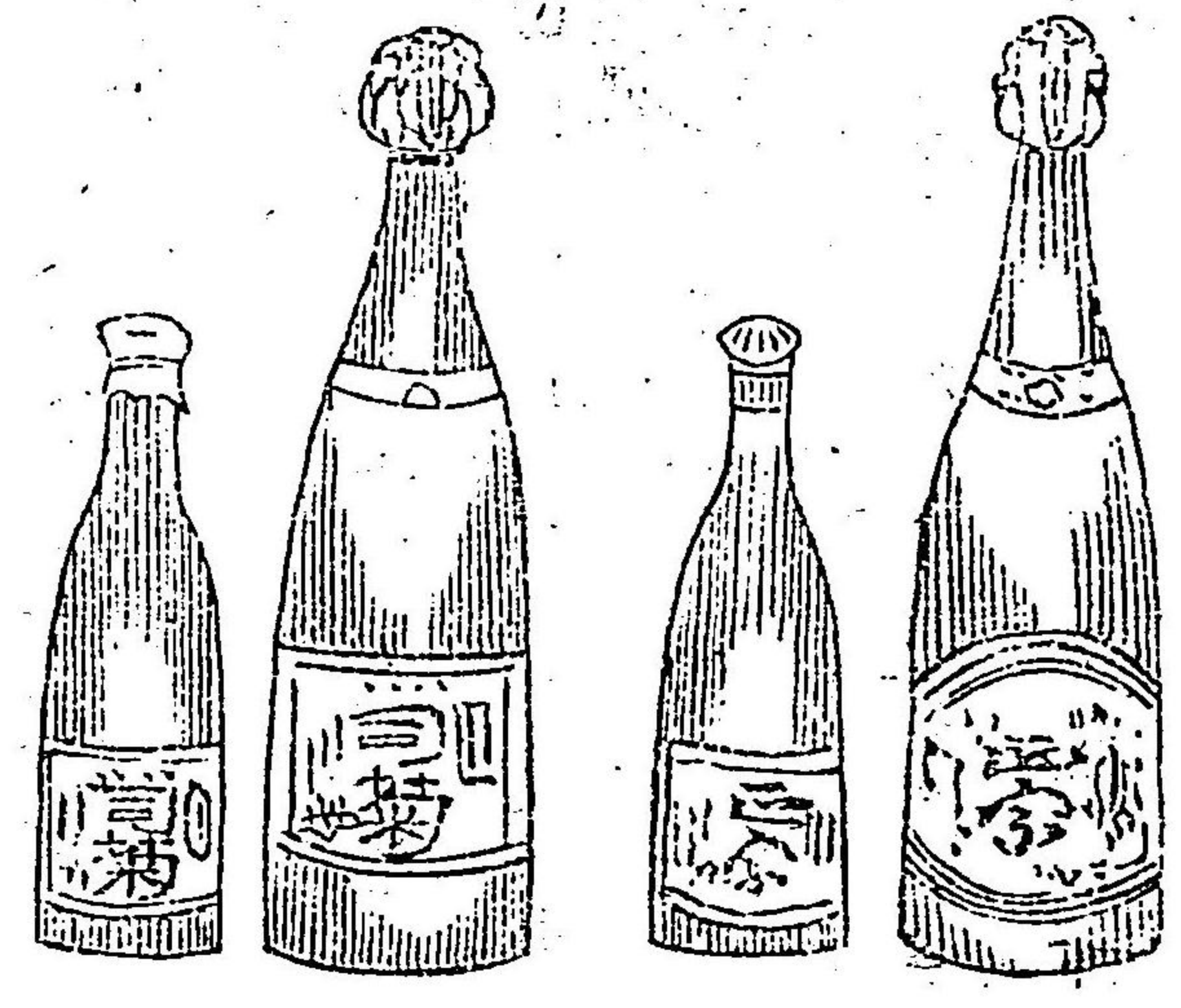
京都市姉小路車屋所

伏見屋本店

同 四條通柳馬場衆入



尚なる瓶詰をも併せて販賣仕候へば
 賣升賣とも何卒倍舊御需用あらんこと
 を奉冀候也



京都市姉小路車屋所

伏見屋本店

同 四條通柳馬場衆入

伏見屋支店

同 蛸樂師御幸町角

伏見屋代理店

其他賣捌所は數百軒あり